

松本市総合計画策定に係る 基礎調査報告書

目的 本資料は松本市総合計画策定に向け、松本市の人口動向や各政策分野の状況をまとめ、松本市の強み・弱みの分析を行うことを目的に作成したものである。

目次

	分野	ページ番号
(1)	人口動向	2
(2)	産業・雇用	24
(3)	健康・医療・福祉	48
(4)	子育て・教育・文化・芸術・スポーツ	60
(5)	環境	67
(6)	社会基盤・地域づくり	72
(7)	行財政	85

比較地点 松本市の強み・弱みの把握を行うため、比較可能なデータについては、県内19市及び3つの類似団体と比較を行っている。なお、類似団体は人口規模や産業構成を考慮し、山梨県甲府市、福井県福井市、新潟県上越市としている。

1

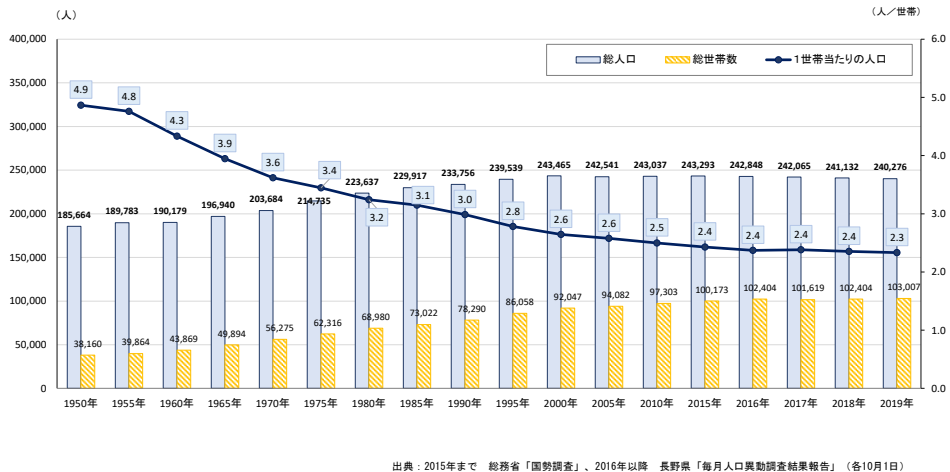
(1) 人口動向

2

人口推移

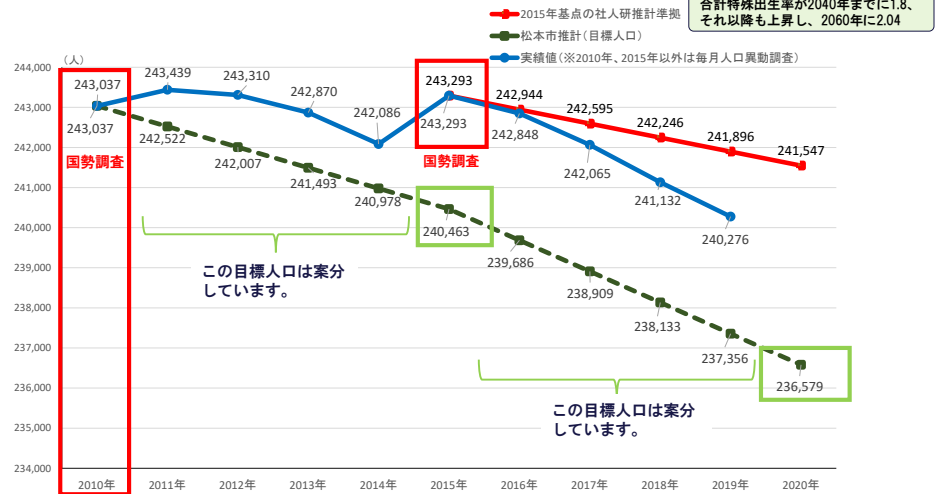
- 松本市の総人口は国勢調査で見ると、2000年をピークに24万人台で微増減しながら推移し、2019年は240,276人となっている。
- 世帯数は増加傾向であり、1世帯あたりの人員は減少している。

■松本市の総人口・総世帯数



- 下図は松本市の目標人口と近年の人口推移、および今後の人口推計を示している。2010年以降、総人口は目標人口を上回って推移している。2015年の国勢調査を基点とした人口推計（社人研推計）よりも下回って推移している。

■近年の人口推移と目標人口との差

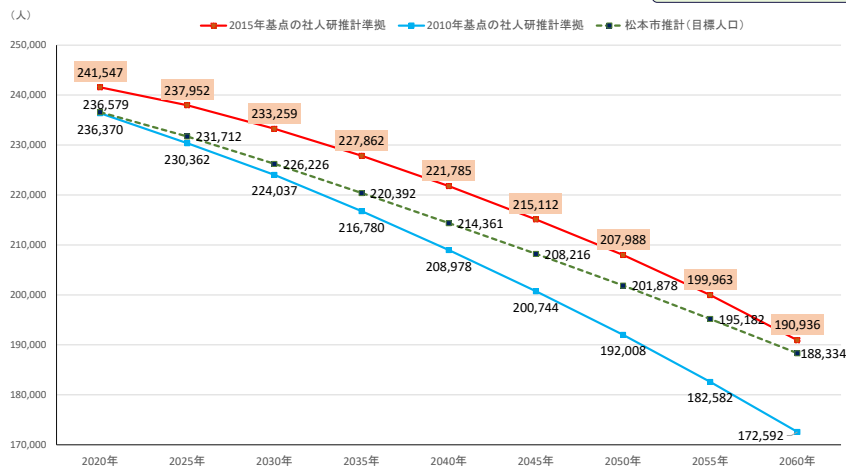


出典：目標値：松本市人口推計、推計値：内閣府人口推計ワークシート（国立社会保険・人口問題研究所準拠）
実績値：総務省「国勢調査」（2010年、2015年）、長野県「毎月人口異動調査結果報告」（2011～2014年）（2016～2019年）各年10月1日

➤ 2015年の国勢調査を基点とした人口推計（社人研準拠）では、松本市推計（目標人口）を上回って推移すると予測されている。

■2020年以降の松本市の人口推計

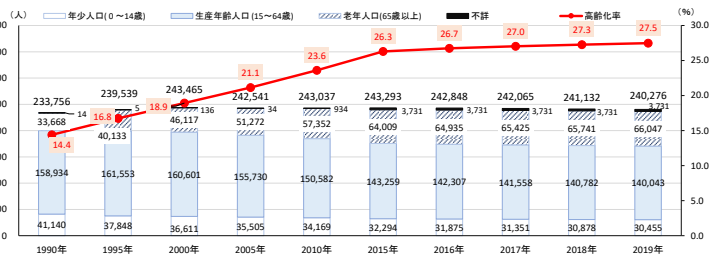
【松本市推計】
2010年の国勢調査を基点に推計し、
合計特殊出生率が2040年までに1.8、
それ以降も上昇し、2060年に2.04



出典：目標値：松本市人口推計、推計値：内閣府人口推計ワークシート(国立社会保障・人口問題研究所準拠)

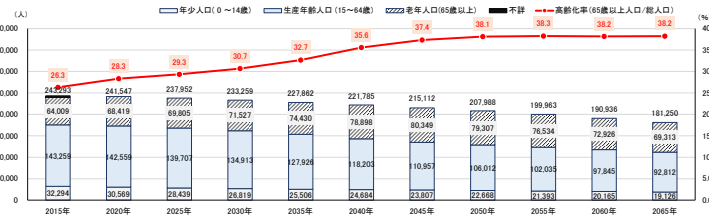
➤ 年少人口、生産年齢人口は一貫して減少し、老年人口が増え続けており、2019年の高齢化率は27.5%となっている。
➤ 今後も高齢化率は2055年まで上昇することが予想されている。

■松本市の年齢3区分別人口の推移



出典：2015年まで 総務省「国勢調査」、2016年以降 長野県「毎月人口異動調査結果報告」(各10月1日)

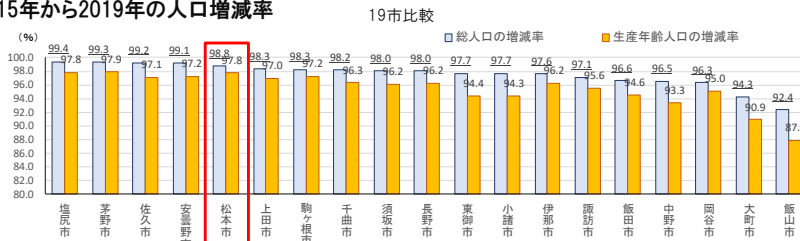
■松本市の年齢3区分別人口の推計



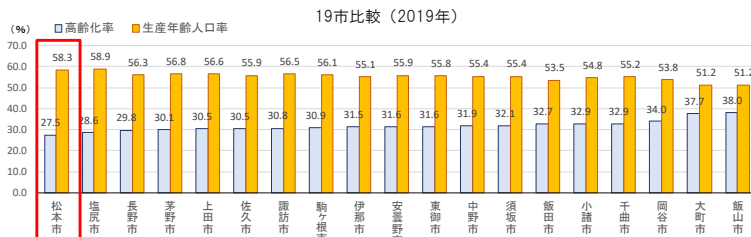
出典：2015年 総務省「国勢調査」(2015年)、2020年以降 推計値：内閣府人口推計ワークシート(国立社会保障・人口問題研究所準拠)

- 近年(2015→2019年)の人口増減率を比較すると、松本市の増減率は総人口で98.8%、生産年齢人口で97.8%となっており、県内19市と比較すると、減少率は抑制されている。
- 2019年の高齢化率は、県内19市で最も低い。

2015年から2019年の人口増減率

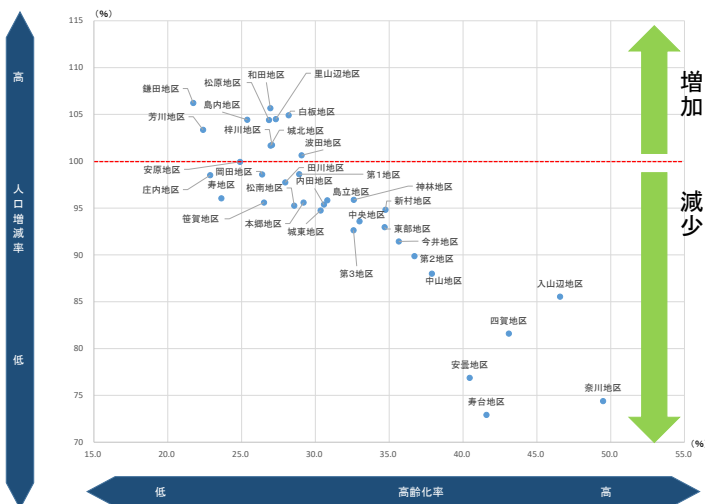


高齢化率・生産年齢人口率(2019年)



- 地区別に人口増減率(2010→2019年)をみると、人口が増加している地区数よりも減少している地区数の方が多い。人口減少が進んでいる地区では高齢化率も高くなっている。

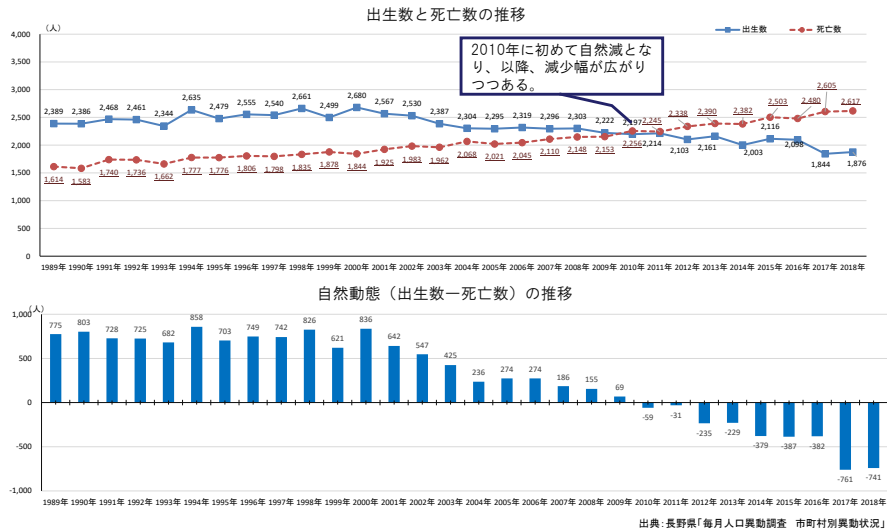
地区別の2010年から2019年の人口増減率と高齢化率



自然動態

出生数、死亡数の推移をみると2010年に初めて死亡数が出生数を上回り、自然減となった。その後は自然減の幅が広がりがつあり、2017年以降は700人以上の自然減となっている。本市の人口減少に影響を与える要因となっている。

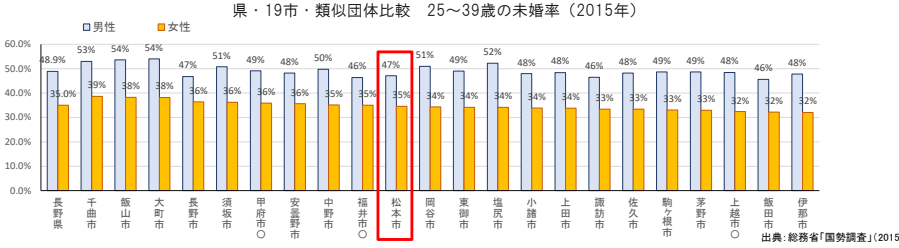
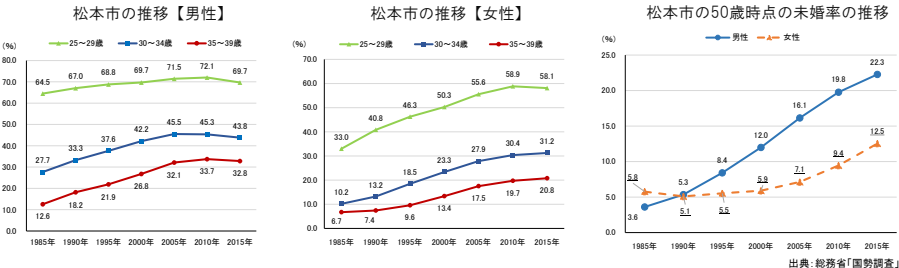
■自然動態の推移



年代別に未婚率をみると、男性は2010年まで概ねどの年代も上昇していたが2015年は微減している。女性は30～34歳、35～39歳とともに上昇傾向が続いている。50歳時点の未婚率は男女ともに近年大幅に上昇している。

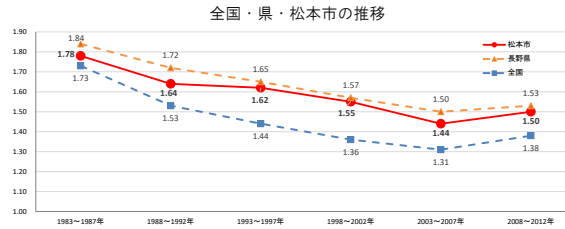
県及び他市と比較すると、松本市の未婚率は中位に位置する。

■未婚率

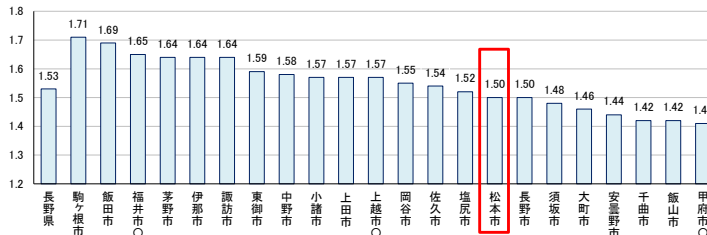


▶ 合計特殊出生率は、2003～2007年の数値よりもわずかに回復し、2008～2012年は1.5となった。県及び他市との比較では中位よりやや低くなっている。

■合計特殊出生率



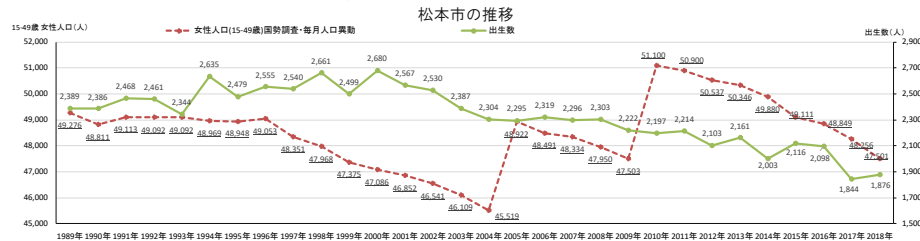
■県・19市・類似団体比較 (2008年～2012年)



出典:厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計(人口動態統計特殊報告)」(2008年～2012年)

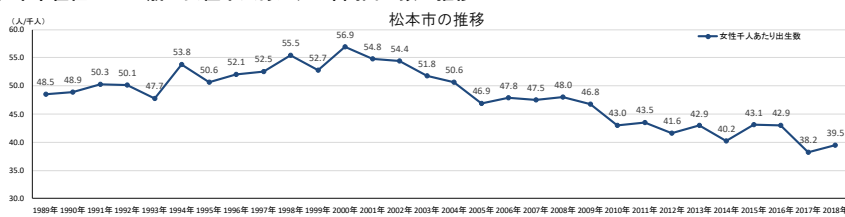
▶ 15～49歳の女性人口と出生数の推移をみると、近年はともに減少傾向にある。
▶ 女性千人あたりの出生数は下がっており、近年は40人台となっている。

■松本市在住15～49歳の女性人口と出生数の推移



出典:女性人口:長野県「毎月人口異動調査結果報告」総務省「国勢調査」
出生数:長野県「毎月人口異動調査 市町村別異動状況」

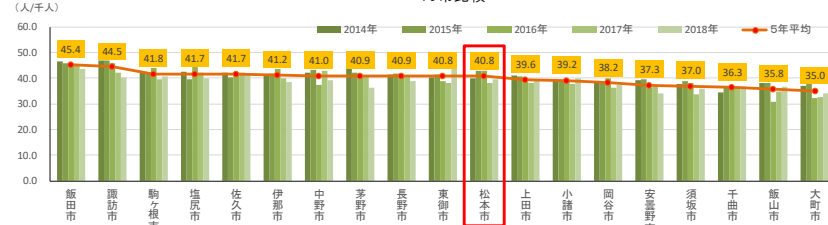
■松本市在住15～49歳の女性千人あたりの年間出生数の推移



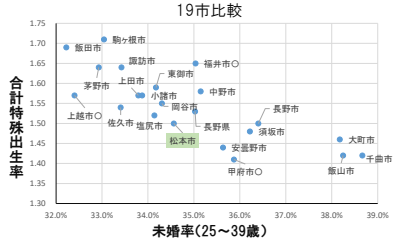
出典:女性人口:長野県「毎月人口異動調査結果報告」(国勢調査報告)
出生数:長野県「毎月人口異動調査 市町村別異動状況」

- 女性千人あたりの出生数（2014～2018年の5年平均）は、県内19市中、飯田市が最も多く45.4人となっている。松本市は40.8人で、中位水準に位置している。
- 未婚率の低さと、合計特殊出生率の高さや15～49歳の女性千人あたりの年間出生数に関連が見られる。

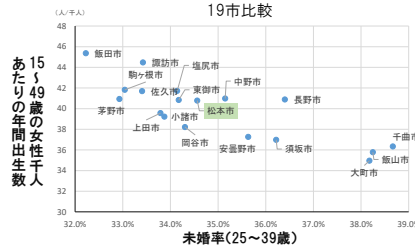
■15～49歳の女性千人あたりの年間出生数



■合計特殊出生率×未婚率(25～39歳)



■15～49歳の女性千人あたりの年間出生数×未婚率(25～39歳)



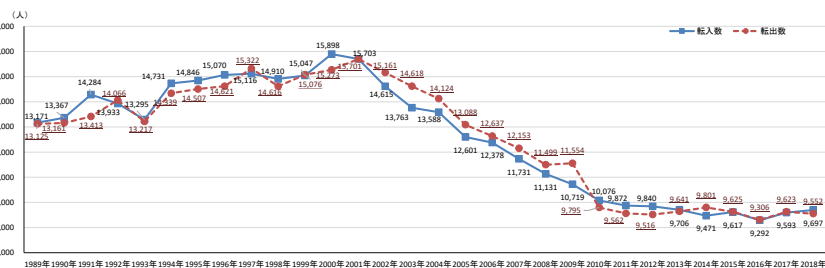
出典：女性人口：長野県「毎月人口異動調査結果報告」総務省「国勢調査」（2015年） 出生数：長野県「毎月人口異動調査 市町村別異動状況」

社会動態

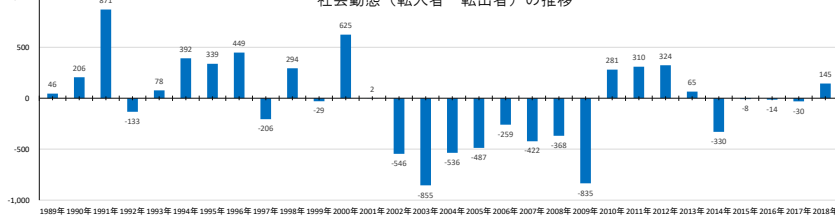
- 転入・転出の推移、2001年～2009年は転出超過で推移しているが、近年は転入転出が均衡し、年によっては転入超過となっている。

■社会動態の推移

転入者と転出者の推移



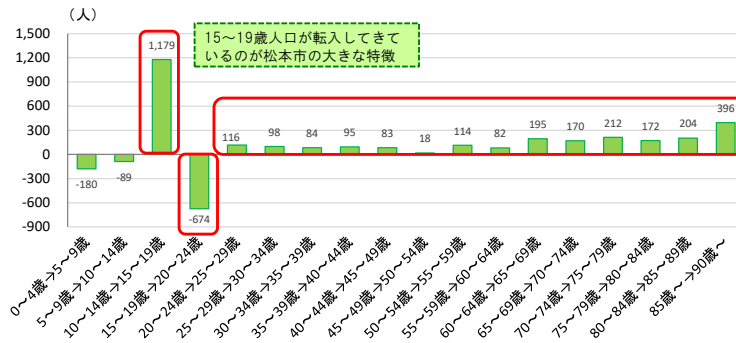
社会動態（転入者－転出者）の推移



注)合併前は、合併地区からの転出入数が含まれている。 例:旧梓川村-旧松本市 など 出典:長野県「毎月人口異動調査 市町村別異動状況」

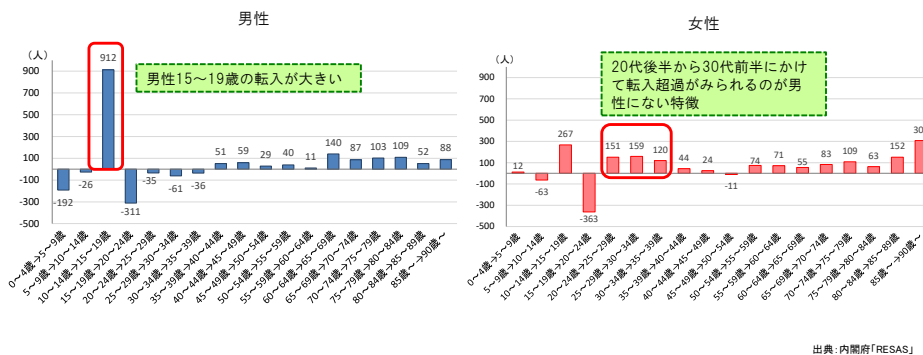
- ▶ 年代別にみると、10代後半層の転入が大きく、信州大学をはじめ、市内に大学があることが大きな要因と考えられる。
- ▶ 20代前半では一転して転出が大きくなるが、20代後半以降はどの世代も転入超過となっている。

■松本市の年代別純移動者数(2010～2015年実数)【総数】



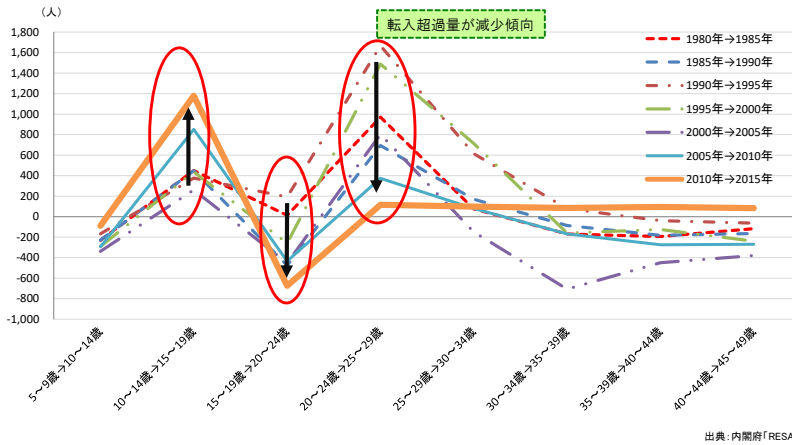
- ▶ 男女ともに、20代前半で転出超過となっている。
- ▶ 男性は10代後半にかけての転入が特に大きくなっているが、20代前半～30代前半で転出超過となっている。
- ▶ 女性は10代後半、20代後半～30代前半で転入超過が見られる。

■松本市の年代別純移動者数(2010～2015年実数)【男女別】



- 転入超過の傾向は、10代後半では近年大きくなっているが、20代後半層では逆に近年小さくなっている。
- 20代前半層の転出超過傾向は、近年大きくなっている。

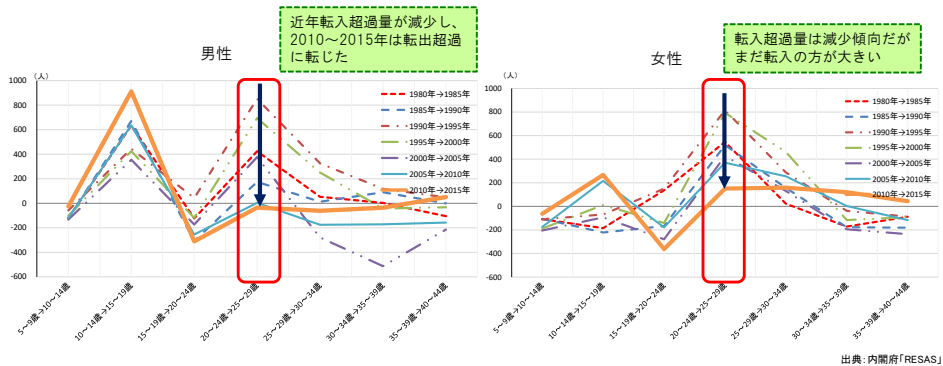
■松本市の年代別純移動者数の推移【総数】



17

- 男女とも、20代後半（20～24歳→25～29歳）で人口の転入超過量が減少している。
- 男性では20代後半は例年大きく転入超過が続いたが、近年は転入と転出の差がなくなり、ほぼゼロになっている。
- 女性では、男性同様に転入超過量が減少する傾向にあるが、20代以降は転入超過の状態を維持している。

■松本市の年代別純移動者数の推移【男女別】

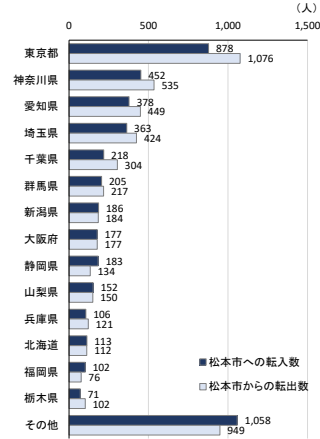


18

- 県外の転出先としては、東京都をはじめとする関東地方や愛知県との間で転出超過がみられる。
- 県内では、長野市・安曇野市との間で転出超過となっているが、塩尻市等との間では転入超過となっている。

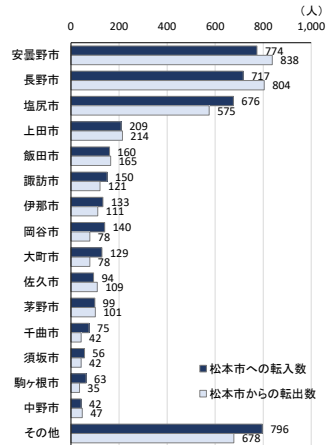
■転入先・転入元別転出者数・転入者数

県外への転出数・県外からの転入数（2018年）



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2018年)

県内への転出数・県内からの転入数（2018年）

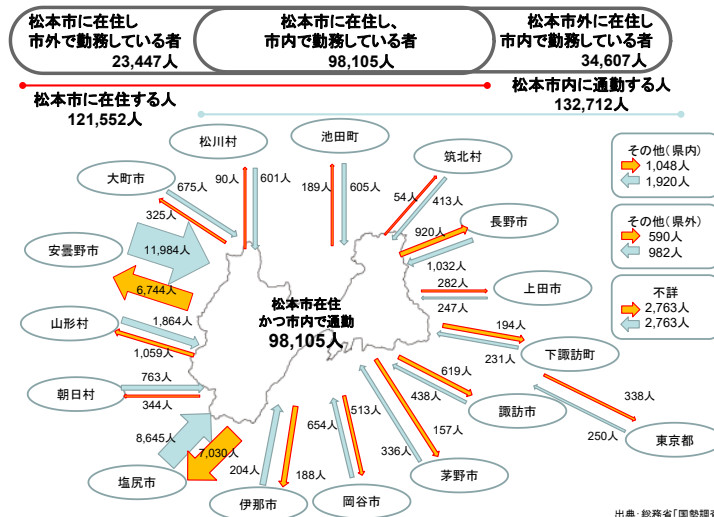


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2018年)

通勤による人口移動

- 安曇野市、塩尻市との間で、通勤による人の出入りが多くなっている。
- 全体的には、市外への通勤者よりも市内への通勤者が多くなっており、特に安曇野市・塩尻市からの流入が多い。

■通勤者の流入・流出状況(2015年)



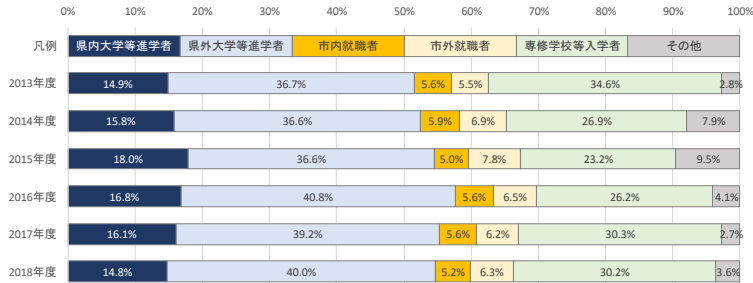
出典：総務省「国勢調査」(2015年)

進学・就職等による転出状況

- ▶ 2018年度の高校の卒業生約2,600人のうち、県内の大学等進学者は約15%、県外の大学等進学者は約40%、市内就職者が約5%、市外就職者が6%、専修学校等入学者が約30%である。
- ▶ 2013年度から2018年度にかけて、県外に進学・就職する人の割合が増加している。

■市内高校卒業者の進路と転出状況

松本市の推移



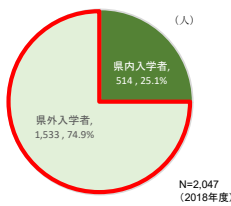
	卒業生数	県内大学等進学者	県外大学等進学者	市内就職者	市外就職者	専修学校等入学者	その他
2013年度	2,602	387	954	145	143	900	73
2014年度	2,557	405	936	150	177	687	202
2015年度	2,651	476	970	132	206	614	253
2016年度	2,653	447	1,082	149	172	694	109
2017年度	2,696	434	1,056	150	166	817	73
2018年度	2,653	392	1,060	137	168	800	96

出典：松本市の統計

■市内主要大学の入学者・卒業生の動向

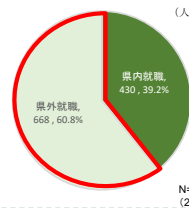
【信州大学】

入学者の出身地 [学部入学者]

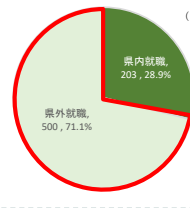


卒業生の就職先

[学部卒業生]

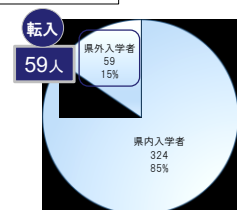


[大学院終了・退学者]

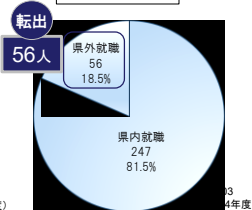


【松本大学】

入学者の出身地 [学部入学者]



卒業生の就職先 [学部卒業生]



- ▶ 信州大学は約2,000人の入学者のうち、約1,500人が県外出身者である。卒業時には、学部卒業生の約6割、大学院修了生の約7割が県外に就職している。
- ▶ 松本大学の県外からの入学者は59人、卒業生のうち県外就職者は56人となっている。
- ▶ 県単位で入学・卒業時点の転出入をみると信州大学はやや転入超過、松本大学は転出入がほぼ同数程度といえる。

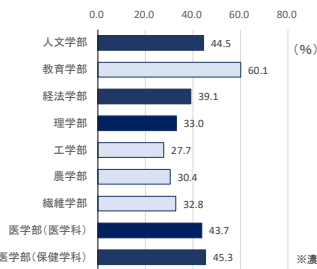
出典：信州大学広報室提供資料 / 松本大学 松本大学キャリアセンター及び入試広報室提供資料

■信州大学の入学者・卒業者の動向(2018年)

入学者の出身地域

出身地域	入学者数		
	人数	比率	
長野県	514	25.1%	
県外	関東甲信越	568	27.7%
	北海道	37	1.8%
	東北	48	2.3%
	東海	441	21.5%
	北陸	91	4.4%
	近畿	198	9.7%
	中国・四国	63	3.1%
	九州・沖縄	46	2.2%
その他	6	0.3%	
留学生	35	1.7%	
合計	2,047	100.0%	

学部別の県内進学・就職率



- 信州大学の入学者の出身地をみると、県外では関東甲信越や東海が多い。
- 学部別に県内進学・就職率をみると、松本キャンパスにある人文学部は44.5%、経法学部は39.1%、理学部は33.0%、医学部(医学部)は43.7%、医学部(保健学科)は45.3%であり、松本キャンパスのなかでは理学部が県外への人材流出が最も大きい。

※濃い青色は松本キャンパスにある学部

学部別の進学・就職状況

学部	進学 (人)	就職 (人)	その他 (人)	県内 県外									
				(%)	北海道	東北	首都圏	東海	北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄	その他
人文学部	1	119	26	44.5	0.8	1.7	26.0	12.6	6.8	1.7	4.2	1.7	0.0
教育学部	0	192	7	60.1	0.5	1.8	19.3	9.6	4.6	1.8	1.4	0.9	0.0
経法学部	2	174	16	39.1	0.6	0.6	36.8	13.2	5.7	2.3	1.1	0.0	0.6
理学部	79	100	15	33.0	2.0	0.0	34.0	6.0	8.0	4.0	0.0	1.0	12.0
工学部	297	209	12	27.7	0.0	0.0	34.9	22.5	5.3	7.6	1.0	0.5	0.5
農学部	72	102	9	30.4	2.0	5.9	33.3	13.7	2.0	9.8	2.0	1.0	0.0
繊維学部	209	67	7	32.8	0.0	0.0	41.8	10.4	3.0	10.4	0.0	1.5	0.0
医学部(医学科)	—	—	—	43.7	0.0	0.9	32.7	10.9	1.8	4.6	2.7	2.7	0.0
医学部(保健学科)	—	—	—	45.3	0.8	0.8	25.0	14.0	8.6	3.9	0.8	0.8	0.0

出典:信州大学広報室提供資料

23

(2) 産業・雇用

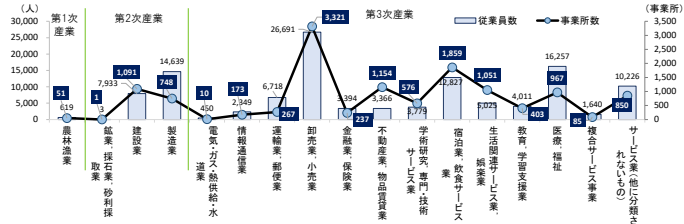
24

事業所数と従業員数

- 市内従業員数は、第1次産業が0.5%、第2次産業が18.8%、第3次産業が80.7%であり、第3次産業の占める割合が大きい。
- 分類別にみると、市内の事業所数・従業員数ともに卸売業・小売業が最も多い。次いで事業所数は宿泊業・飲食サービス業、従業員数は医療・福祉、製造業が多くなっている。
- 推移をみると、10年間で事業所数はやや減少、従業員数は微増している。産業別には事業所数・従業員数とも医療・福祉で大きく伸びている。逆に教育・学習支援業が大きく減少している。

■松本市の産業別民間事業所数・従業員数(2016年)

	従業員数	構成比
第1次産業	619	0.5%
第2次産業	22,575	18.8%
第3次産業	96,733	80.7%
合計	119,927	100.0%



事業所数の推移

	2006年	2009年	2012年	2014年	2016年	対2006年 増減率(%)
農林漁業	26	55	60	55	51	196.2
鉱業	4	4	2	1	1	25.0
建設業	1,231	1,241	1,176	1,145	1,091	88.6
製造業	651	628	633	797	748	87.9
電気・ガス・熱供給・水道業	8	8	7	11	10	166.7
情報通信業	158	170	166	163	172	109.5
運輸業	224	273	248	295	267	119.2
卸売・小売業	3,785	3,707	3,469	3,437	3,321	88.2
金融・保険業	226	264	295	248	237	104.9
不動産業	1,137	1,323	1,245	1,209	1,194	101.5
飲食店・宿泊業	2,020	1,971	1,821	1,847	1,859	92.0
教育・学習支援業	648	394	383	394	403	62.2
医療・福祉	365	720	792	914	967	264.9
複合サービス事業	124	94	86	93	85	68.5
サービス業	2,514	2,572	2,475	2,515	2,477	98.5
合計	13,301	13,643	13,028	13,194	12,844	96.8

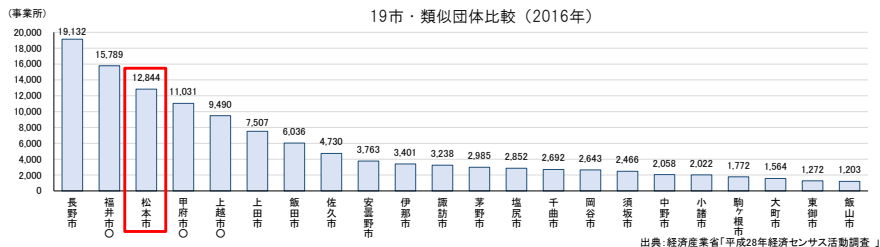
従業員数の推移

	2006年	2009年	2012年	2014年	2016年	対2006年 増減率(%)
農林漁業	381	724	1,105	674	619	162.5
鉱業	31	25	20	4	1	9.7
建設業	8,976	8,746	8,708	8,013	7,932	88.4
製造業	18,185	16,275	16,063	16,028	14,639	80.5
電気・ガス・熱供給・水道業	338	405	451	427	450	133.9
情報通信業	3,318	3,151	2,716	2,228	2,340	70.8
運輸業	5,005	6,791	6,667	6,154	6,718	134.2
卸売・小売業	29,439	28,767	27,440	26,690	26,691	90.7
金融・保険業	3,488	3,645	3,761	3,521	3,384	97.2
不動産業	2,454	3,844	3,560	3,465	3,366	137.2
飲食店・宿泊業	11,691	13,081	12,198	13,259	12,827	109.7
教育・学習支援業	6,142	3,912	3,663	3,415	4,011	43.9
医療・福祉	3,729	12,268	13,262	16,339	16,252	518.2
複合サービス事業	1,709	1,335	1,609	1,684	1,440	86.0
サービス業	21,273	21,709	18,287	18,200	19,030	89.5
合計	118,558	124,478	120,070	120,049	119,927	101.2

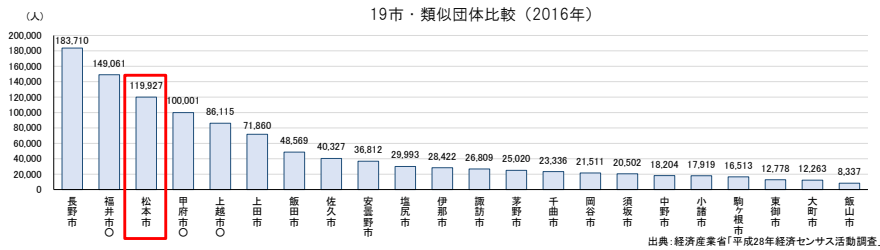
注：2006年に比べ、事業所数は100以上、従業員数は1,000人以上の増減があった産業分野に色を付けている
出典：経済産業省「事業所・企業統計」(2006年)、「経済センサス基礎調査」、「経済センサス活動調査」

松本市の事業所数、従業員数はともに、長野市、福井市に次いで多く、甲府市、上越市より多い。

■全事業所数

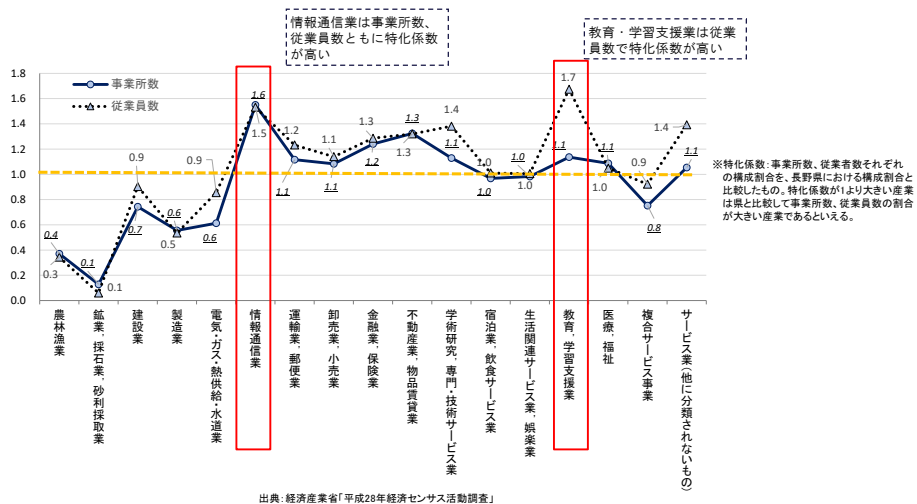


■全従業員数



▶ 対長野県の特化係数をみると、情報通信業が事業所数・従業員数ともに高い。従業員数では教育・学習支援業、学術研究・専門・技術サービス、サービス業の特化係数が高くなっており、地域の中核的都市であることや大学等高等教育機関が立地していることが影響していると考えられる。

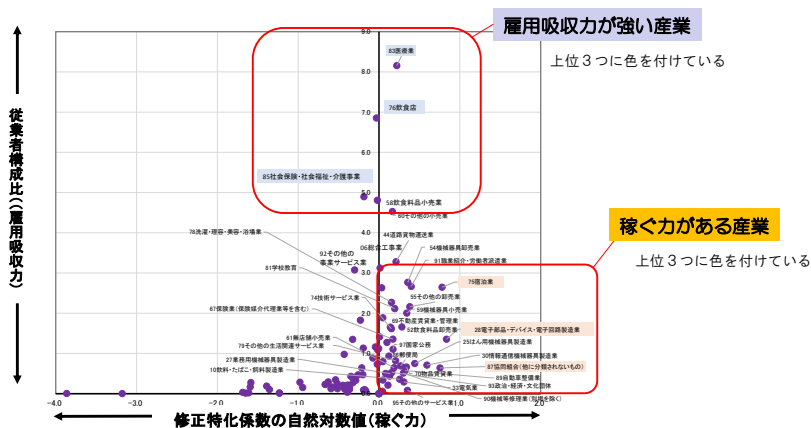
■松本市の産業別事業所数と従業員数の対長野県特化係数(2016年)



雇用吸収力と稼ぐ力

▶ 産業別に従業員の構成比と修正特化係数をプロットしてみると、雇用吸収力が高い産業は医療業、飲食店である。
▶ 稼ぐ力が比較的高いのは電子部品・デバイス・電子回路製造業、宿泊業、協同組合等となっている。

■従業員構成比と修正特化係数(2016年)



※修正特化係数(自然対数値): 国内における自足率を考慮して、ある産業の相対的な集積度を表す指標。0より大きい場合、全国平均と比較して相対的に強い稼ぐ力がある産業と言える。

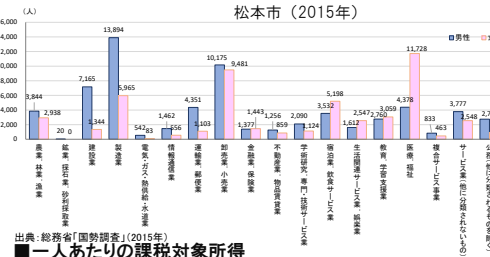
雇用吸収力(従業員割合): 自治体の全従業員数に占めるその産業の従業員の割合

出典: 総務省統計局「地域の産業・雇用創造チャート」(「平成28年経済センサス活動調査」から作成)

市民の就業・所得状況

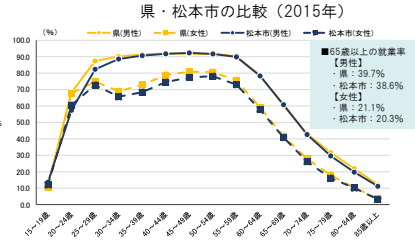
- ▶ 松本市在住の男性は製造業、女性は医療・福祉に従事している人が突出して多い。性別・年齢別就業率を県とほぼ同水準である。
- ▶ 松本市民の一人あたり平均課税所得は325万4千円で、県内19市中でも最も高く、類似団体である甲府市や福井市と同等の水準である。
- ▶ 松本職安管内の有効求人倍率は2018年度から下がりがつつあり、2019年度は国や県を下回って推移し、2月に同水準となっている。

■産業別・男女別就業者数

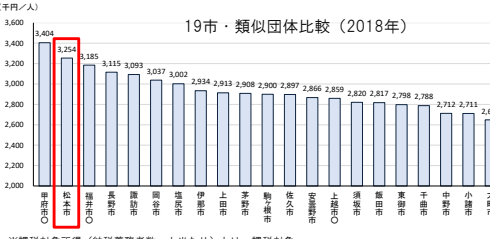


出典：総務省「国勢調査」(2015年)

■性別・年齢別就業率

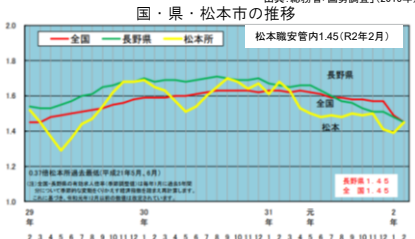


■一人あたりの課税対象所得



※課税対象所得(納税義務者数一人当たり)とは、課税対象所得を納税義務者数(所得割)で除して算出したもの。出典：総務省「市町村税課税状況等の調査」(2018年)

■有効求人倍率



出典：総務省「国勢調査」(2015年) 出典：ハローワーク松本支店月報(2020年2月)

- ▶ 雇用者における労働上の地位をみると、男性、女性ともに宿泊業、飲食サービス業でパート・アルバイト・その他の割合が多くなっている。
- ▶ 女性の方が正規の職員・従業員の割合が低くなっている。

■雇用者の労働上の地位



出典：総務省「国勢調査」(2015年)

産業連関表からみる松本市の産業の特徴

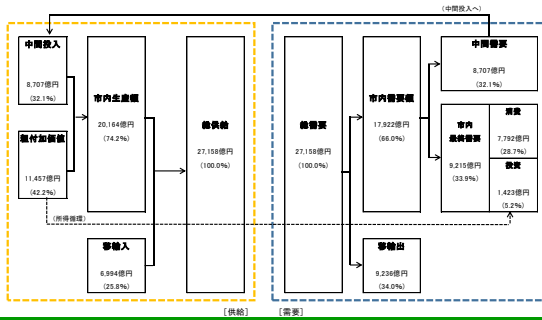
<産業連関表とは>

産業は、多くの種類の財やサービスの経済取引によって成り立っている。ある財を生産するためには、原材料や燃料、労働力等の生産要素が使用され(このことを「投入」という)、その生産された財が他の産業の原材料や家計の消費、輸出等に利用される(このことを「産出」という)。産業連関表は一定の地域の中で一定期間(一年間)に生産された財・サービスの「投入」と「産出」の関係をマトリクスで示したものである。この産業連関表をみることで、どの産業が多く生産しているか、多くの価値を生み出しているか、多く外貨を稼いでいるかなど、地域の稼ぐ力を特定することができる。

さらに、産業連関表では、どの産業が、生産活動に必要な財・サービスの調達をどの産業からどれだけ行っているかという産業間のつながりがわかる。生産額の大きい産業や外貨を稼いでいる産業、原材料等の投入額の大きい産業などの強い産業がどの産業と大きく結びついているかを分析し、その産業の自給率から地域内での循環の度合いを把握する分析が可能である。

需要部門(買い手)	中間需要			最終需要			国内生産額
	1 農林水産業	2 鉱山業	3 製造業	計	個人消費	投資	
供給される財・サービス	1	2	3	A	B	C	D+E
供給される財・サービス	1	2	3	A	B	C	D+E
計	D	E	F	G	H	I	J
国内生産額	D+E			G+H			J

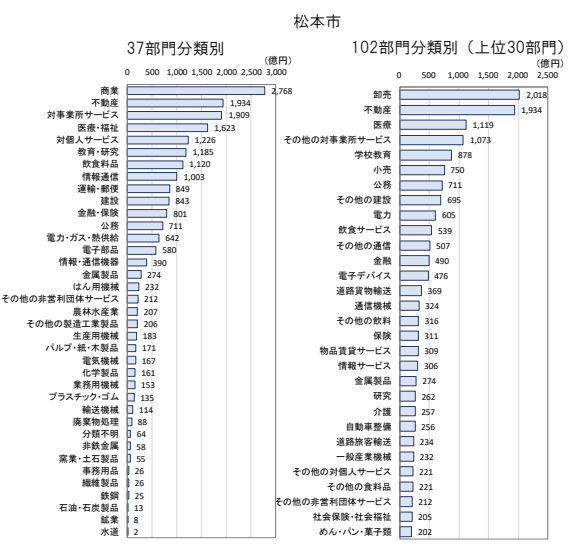
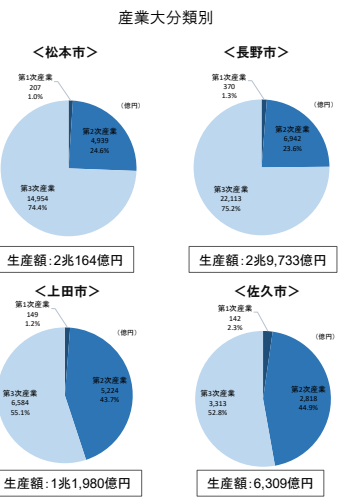
■松本市の経済フロー(投入・産出の全体構造)



- > 平成23年長野県産業連関表をもとに、松本市版産業連関表を作成し、分析を行った。
- > 松本市の市内生産額は2兆164億円であり、これに移輸入を含めた総需要(総供給)は2兆7,158億円。このうち生産活動に使用した原材料等の額(中間投入)は8,707億円、粗付加価値は1兆1,457億円となっている。
- > また、総供給のうち、34%にあたる9,236億円は市外に販売されている(移輸出)。
- > 移輸出から移輸入を差し引いた市際収支は、2,242億円の移輸出超過となっている。

- > 第1〜3次産業別の割合は長野市とほぼ同様で、第3次産業が多くを占める。
- > 37部門分類別に市内生産額をみると、商業、不動産、対事業所サービス、医療・福祉が上位となっている。
- > 102部門分類別にみると、卸売、不動産の2産業が突出して大きく、次いで医療、その他の対事業所サービスとなっている。

■市内生産額



※生産額の合計値には「分類不明」も含まれるため、円グラフの第1次〜第3次産業の合計と合致しない

▶ 37部門分類別の生産額を特化係数（対県・対全国）で比較すると、対全国の特化係数が情報・通信機器、電子部品で2以上と大きくなっている。

■市内生産額 特化係数(37部門分類)

部門分類 37部門	松本市		長野県		全国		特化係数 対県	特化係数 対全国
	生産額	構成比	生産額	構成比	生産額	構成比		
1 農林水産業	207	1.0%	3,128	2.1%	120,360	1.3%	0.90	0.80
2 鉱業	8	0.0%	217	0.1%	7,600	0.1%	0.28	0.48
3 食料品	1,120	5.8%	8,332	5.3%	355,408	3.8%	1.01	1.47
4 繊維製品	29	0.1%	273	0.2%	3,341	0.4%	0.72	0.26
5 パルプ・紙・本製品	171	0.8%	1,383	0.9%	110,685	1.2%	0.93	0.72
6 化学製品	181	0.9%	2,073	1.4%	278,338	2.9%	0.58	0.27
7 石油・石炭製品	13	0.1%	153	0.1%	188,572	2.1%	0.62	0.63
8 プラスチック製品	125	0.7%	1,268	1.8%	129,091	1.4%	0.71	0.48
9 窯業・土石製品	85	0.4%	1,628	1.1%	84,385	0.7%	0.76	0.40
10 鉄鋼	25	0.1%	451	0.3%	394,872	3.2%	0.41	0.64
11 非鉄金属	58	0.3%	824	0.6%	90,818	1.0%	0.47	0.30
12 金属製品	274	1.4%	2,443	1.6%	101,213	1.1%	0.70	1.28
13 非金属製品	197	1.0%	2,244	1.5%	94,448	1.0%	0.78	1.13
14 金属用機械	183	0.9%	4,348	2.9%	143,591	1.5%	0.32	0.59
15 業務用機械	153	0.8%	2,905	1.7%	64,328	0.7%	0.46	1.11
16 住宅用機械	380	2.0%	7,163	4.7%	134,084	1.4%	0.61	2.68
17 電気機械	197	1.0%	3,138	2.1%	100,471	1.0%	0.60	0.92
18 情報・通信機器	380	1.9%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
19 報道機械	114	0.6%	5,261	3.5%	455,715	4.8%	0.16	0.12
20 その他の製造工業製品	206	1.0%	2,306	1.5%	49,562	1.1%	0.67	0.88
21 輸送	82	0.4%	1,104	0.7%	93,558	0.9%	0.78	0.76
22 電力・ガス・熱供給	642	3.2%	3,111	2.1%	211,873	2.3%	1.55	1.41
23 水道	2	0.0%	730	0.5%	45,874	0.5%	0.69	0.62
24 廃棄物処理	88	0.4%	727	0.5%	27,851	0.4%	0.91	1.09
25 建設	2,700	13.2%	10,011	6.6%	928,558	10.0%	1.40	1.28
26 建設・設備	801	4.0%	4,618	3.0%	320,938	3.4%	1.30	1.18
27 不動産	1,834	9.0%	11,292	7.5%	711,875	7.8%	1.29	1.27
28 運輸・郵便	849	4.2%	5,544	3.7%	492,340	5.1%	1.15	0.82
29 情報通信	1,003	5.0%	5,005	3.3%	481,893	4.9%	1.51	1.61
30 飲食・宿泊	711	3.5%	8,864	4.0%	384,462	4.2%	0.88	0.84
31 娯楽・研究	1,185	5.9%	5,843	3.9%	348,371	3.7%	1.50	1.59
32 教育・福祉	1,823	9.0%	10,691	7.1%	669,751	6.4%	1.14	1.25
33 その他のサービス業	212	1.0%	1,420	0.9%	21,698	0.2%	1.12	1.81
34 卸売業・小売業	1,009	5.0%	8,728	4.4%	604,472	7.0%	1.48	1.34
35 個人サービス	1,229	6.1%	9,548	6.3%	527,541	5.8%	0.96	1.08
36 娯楽用品	26	0.1%	226	0.1%	13,250	0.1%	0.87	0.53
37 分類不明	84	0.4%	809	0.5%	50,100	0.5%	0.60	0.60
合計	20,184	100.0%	151,584	100.0%	9,286,749	100.0%		

※特化係数：国の各産業の構成比と全産業生産額における各産業の生産額の割合に対する市の各産業の構成比の割合。市の構成比が国より大きいほど特化係数は大きくなる。

▶ 102部門分類別の生産額の特化係数（対県・対全国）をみると、通信機器、その他の飲料、電子デバイスが全国に比べて特化係数が大きく、特徴のある産業といえる。また、県に対しては、生産額は大きくないものの、航空輸送が特化した産業といえる。

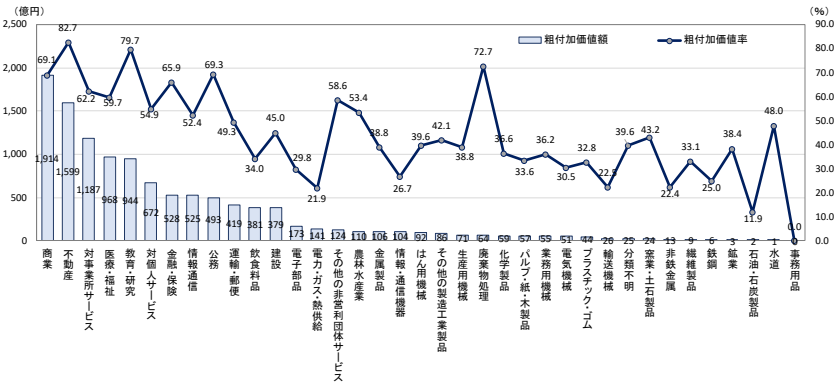
■市内生産額 特化係数(102部門分類)

部門分類 102部門	松本市		長野県		全国		特化係数 対県	特化係数 対全国
	生産額	構成比	生産額	構成比	生産額	構成比		
1 農林水産業	214	0.3%	2,444	1.6%	19,371	0.2%	0.63	0.83
2 鉱業	28	0.0%	424	0.4%	7,787	0.1%	0.58	1.01
3 食料品	1,000	1.4%	7,300	4.8%	244,341	2.6%	1.01	1.47
4 繊維製品	16	0.0%	104	0.7%	1,148	0.1%	0.72	0.26
5 パルプ・紙・本製品	169	0.2%	1,340	0.9%	110,685	1.2%	0.93	0.72
6 化学製品	181	0.2%	2,073	1.4%	278,338	2.9%	0.58	0.27
7 石油・石炭製品	13	0.0%	153	0.1%	188,572	2.1%	0.62	0.63
8 プラスチック製品	125	0.1%	1,268	0.8%	129,091	1.4%	0.71	0.48
9 窯業・土石製品	85	0.1%	1,628	1.1%	84,385	0.7%	0.76	0.40
10 鉄鋼	25	0.0%	451	0.3%	394,872	3.2%	0.41	0.64
11 非鉄金属	58	0.0%	824	0.6%	90,818	1.0%	0.47	0.30
12 金属製品	274	0.4%	2,443	1.6%	101,213	1.1%	0.70	1.28
13 非金属製品	197	0.3%	2,244	1.5%	94,448	1.0%	0.78	1.13
14 金属用機械	183	0.3%	4,348	2.9%	143,591	1.5%	0.32	0.59
15 業務用機械	153	0.2%	2,905	1.7%	64,328	0.7%	0.46	1.11
16 住宅用機械	380	0.5%	7,163	4.7%	134,084	1.4%	0.61	2.68
17 電気機械	197	0.3%	3,138	2.1%	100,471	1.0%	0.60	0.92
18 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
19 報道機械	114	0.2%	5,261	3.5%	455,715	4.8%	0.16	0.12
20 その他の製造工業製品	206	0.3%	2,306	1.5%	49,562	1.1%	0.67	0.88
21 輸送	82	0.1%	1,104	0.7%	93,558	0.9%	0.78	0.76
22 電力・ガス・熱供給	642	0.9%	3,111	2.1%	211,873	2.3%	1.55	1.41
23 水道	2	0.0%	730	0.5%	45,874	0.5%	0.69	0.62
24 廃棄物処理	88	0.1%	727	0.5%	27,851	0.4%	0.91	1.09
25 建設	2,700	3.7%	10,011	6.6%	928,558	10.0%	1.40	1.28
26 建設・設備	801	1.1%	4,618	3.0%	320,938	3.4%	1.30	1.18
27 不動産	1,834	2.6%	11,292	7.5%	711,875	7.8%	1.29	1.27
28 運輸・郵便	849	1.2%	5,544	3.7%	492,340	5.1%	1.15	0.82
29 情報通信	1,003	1.4%	5,005	3.3%	481,893	4.9%	1.51	1.61
30 飲食・宿泊	711	1.0%	8,864	4.0%	384,462	4.2%	0.88	0.84
31 娯楽・研究	1,185	1.6%	5,843	3.9%	348,371	3.7%	1.50	1.59
32 教育・福祉	1,823	2.6%	10,691	7.1%	669,751	6.4%	1.14	1.25
33 その他のサービス業	212	0.3%	1,420	0.9%	21,698	0.2%	1.12	1.81
34 卸売業・小売業	1,009	1.4%	8,728	4.4%	604,472	7.0%	1.48	1.34
35 個人サービス	1,229	1.7%	9,548	6.3%	527,541	5.8%	0.96	1.08
36 娯楽用品	26	0.0%	226	0.1%	13,250	0.1%	0.87	0.53
37 分類不明	84	0.1%	809	0.5%	50,100	0.5%	0.60	0.60
合計	20,184	100.0%	151,584	100.0%	9,286,749	100.0%		

部門分類 102部門	松本市		長野県		全国		特化係数 対県	特化係数 対全国
	生産額	構成比	生産額	構成比	生産額	構成比		
38 航空輸送	11	0.0%	393	0.3%	48,724	0.5%	0.60	0.80
39 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
40 その他の飲料	14	0.0%	104	0.7%	1,148	0.1%	1.18	0.18
41 電気機械	197	0.3%	3,138	2.1%	100,471	1.0%	0.60	0.92
42 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
43 電気機械	197	0.3%	3,138	2.1%	100,471	1.0%	0.60	0.92
44 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
45 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
46 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
47 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
48 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
49 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
50 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
51 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
52 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
53 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
54 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
55 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
56 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
57 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
58 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
59 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
60 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
61 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
62 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
63 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
64 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
65 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
66 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
67 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
68 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
69 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
70 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
71 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
72 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
73 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
74 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
75 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
76 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
77 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
78 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
79 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
80 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
81 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
82 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
83 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
84 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
85 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
86 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
87 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
88 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
89 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
90 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
91 情報・通信機器	380	0.5%	3,739	2.5%	79,024	0.8%	0.78	2.30
92 情報・通信								

- 粗付加価値額は商業、不動産、対事業所サービス、医療・福祉、教育・研究などサービス業が上位となっている。
- 粗付加価値率でみると、不動産、教育・研究、廃棄物処理などの産業で高い。

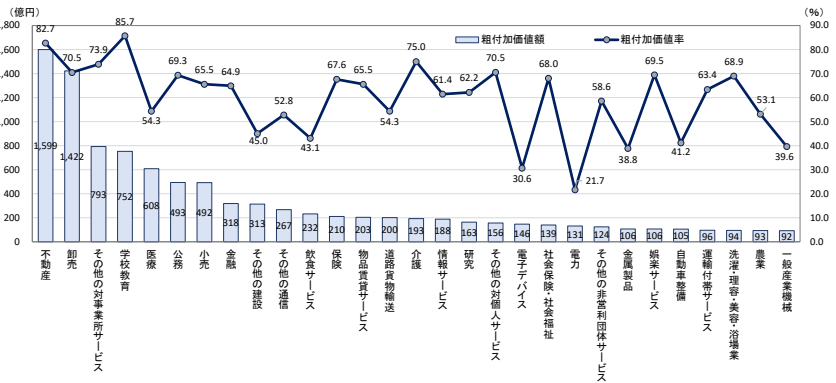
■粗付加価値（37部門分類）



※粗付加価値額: 産業連関表では、家計外消費支出、雇用者所得、営業余剰、資本減耗引当、間接税、(控除)経常補助金の合計で表され、各列の産業が生み出した価値を表す。
粗付加価値率: 粗付加価値部門計の市内生産額に占める割合。

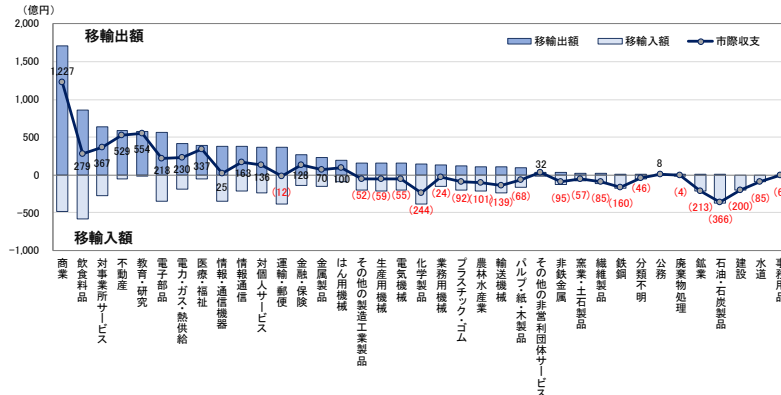
- 102部門分類別の粗付加価値額上位30部門でみると、不動産、卸売が大きく、その他の対事業所サービス、学校教育、医療が上位となっている。
- 粗付加価値率は学校教育、不動産、介護、その他の対事業所サービスなどの産業で高い。

■粗付加価値（102部門分類 上位30部門）



- ▶ 移輸出の大きな産業は「域外市場産業（基盤産業）」と言われ、外貨を稼ぎ地域の経済を支える産業である。37部門分類でみると、松本市では商業の移輸出が突出しており、次いで飲食料品製造となっている。
- ▶ 市外から調達した移輸入との差額である市際収支でも、商業が最も大きい。その他、市際収支が大きくプラスなのは教育・研究、不動産などである。

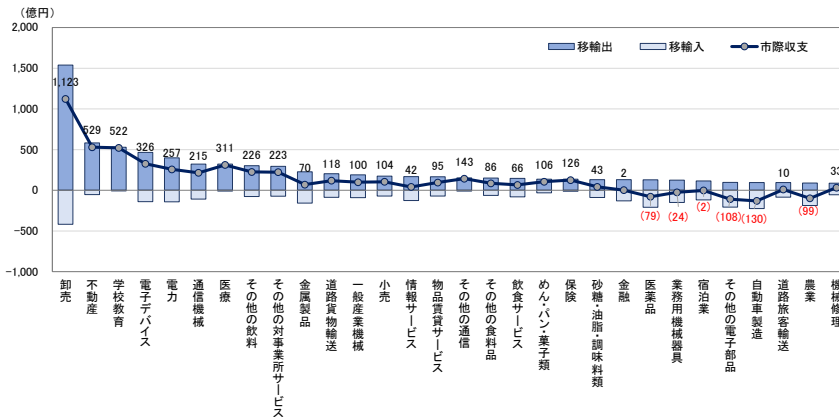
■移輸出入と市際収支（37部門分類）



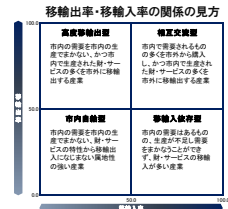
※移輸出：市内の産業が市外の需要をまかなうために供給した財・サービスである移出と、国外の需要をまかなうために供給した財・サービスである輸出を合わせて移輸出という。
 移輸入：市内の産業が市内の需要をまかなうために市外から調達した財・サービスである移入と、国外から調達した輸入を合わせて移輸入という。市内の居住者が市外(国外)で消費した分(海外旅行消費など)も含まれる。
 市際収支：移輸出と移輸入の差額を市際(域際)関係といい、移輸出と移輸入の差額を市際(域際)収支という。

- ▶ 102部門分類別に移輸出額上位30部門についてみると、卸売の移輸出が突出しているほか、不動産、学校教育、電子デバイス等の移輸出が大きい。
- ▶ 一方、市際収支をみると、医薬品、業務用機械器具、宿泊業等で一部移輸入が超過しているが、移輸出の上位部門ではいずれも移輸出超過となっている。

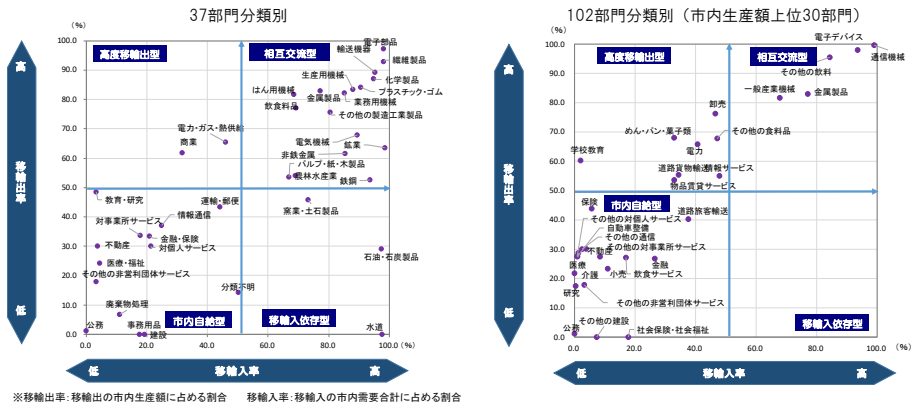
■移輸出入と市際収支（102部門分類 移輸出額上位30部門）



- 37部門分類で移輸出率・移輸入率の関係をみると、高度移輸出型産業に商業が位置している。逆に移輸入が多い移輸入依存型産業には石油・石炭製品、窯業・土石製品が含まれている。
- 102部門分類の総生産額上位30位産業をみると、移輸出額移輸出率も移輸入率も高い相互交流型といえる産業に通信機械、電子デバイス、その他の飲料などの製造業が該当している。



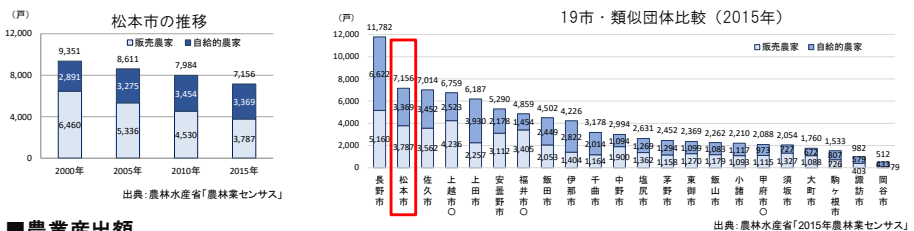
■移輸出率・移輸入率の関係



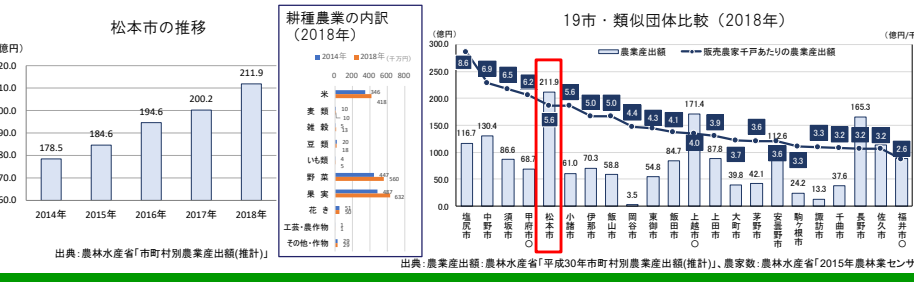
農業の状況

- 2015年の販売農家数は3,787戸、この15年間で販売農家数は4割以上減少した。
- 19市・類似団体の比較では、自給的農家を含めた総農家数では長野市に次いで2番目に多く、佐久市とほぼ同水準。
- 農業産出額は増加傾向である。19市・類似団体と比較して最も大きい、販売農家あたりで見ると5番目となっている。

■農家数

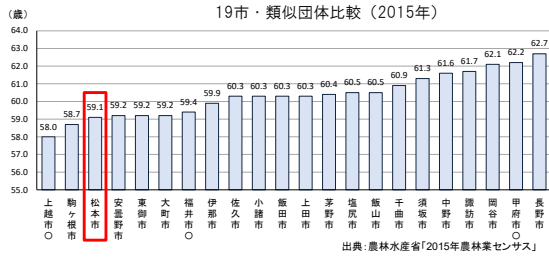
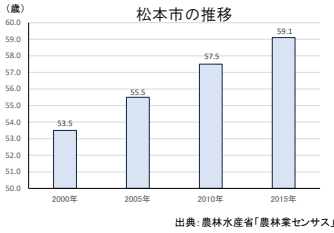


■農業産出額

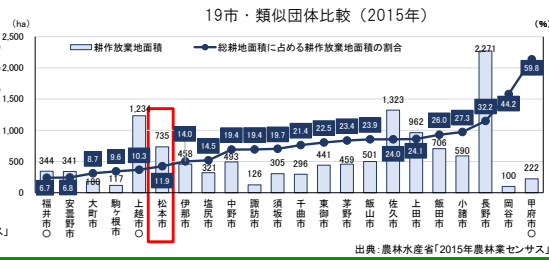
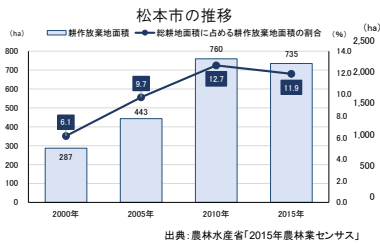


- ▶ 農業従事者の平均年齢は年々上昇傾向にあり、2015年は59.1歳。19市・類似団体の中では、松本市は平均年齢が低い方である。
- ▶ 耕作放棄地面積は拡大傾向で推移してきたが2015年は減少している。耕作地面積に占める割合は他市と比較して低く、耕作放棄が進んでいない。

■農業従事者の平均年齢



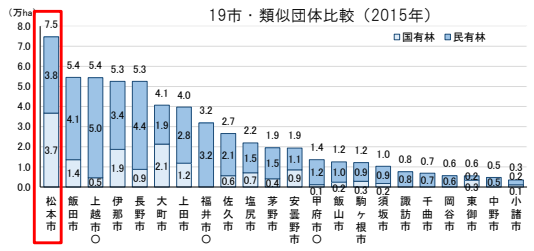
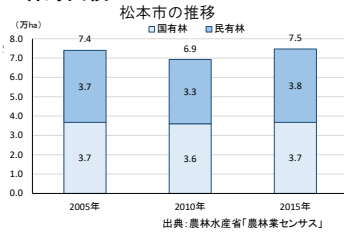
■耕作放棄地面積の推移



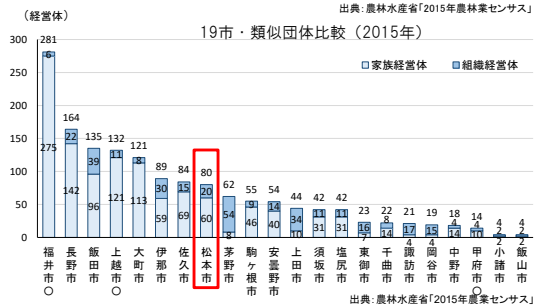
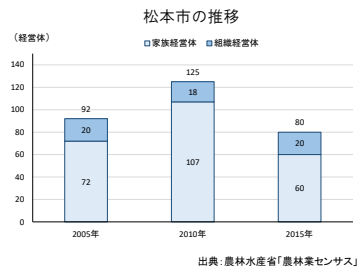
林業の状況

- ▶ 林野面積は市町村合併により、2010年に比べ約5,000ha増加している。19市・類似団体の中では最も広い。
- ▶ 林業経営体数は大きく減少しており、特に家族経営体の減少幅が大きい。

■林野面積



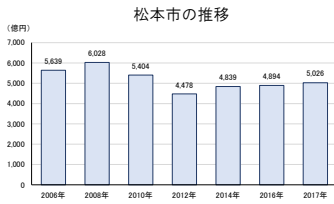
■林業経営体数



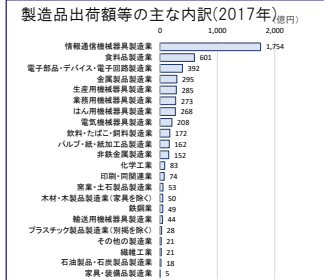
製造業の状況

- ▶ 松本市の製造業出荷額等は、リーマンショックや東日本大震災等の影響による下落から徐々に回復しつつあるものの、依然としてリーマンショック前の水準に回復していない。従業者当たりの製造業出荷額でみると、松本市は3,639万円と19市・類似団体に比較すると高い水準にある。
- ▶ 従業者あたりの粗付加価値額は塩尻市に次いで高く、19市・類似団体に比較して利益を多くあげている。

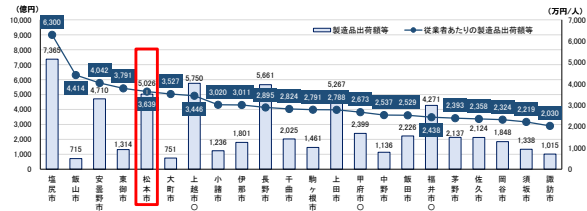
■ 製造業出荷額等



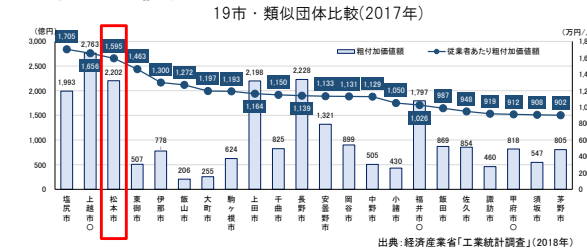
出典：経済産業省「工業統計調査」、「経済センサス活動調査」



19市・類似団体比較(2017年)



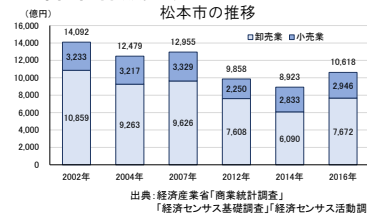
■ 粗付加価値額



商業の状況

- ▶ 松本市の年間商品販売額は長期的に減少傾向で推移してきたが、2016年は1兆618億円とやや持ち直している。松本市で年間商品販売額が大きいのは卸売業である。卸売業をみると「機械器具卸売業」「飲食料品卸売業」の年間商品販売額が大きい。なお、19市および類似団体中では年間商品販売額の大きさは長野市、福井市に次ぐ第3位である。
- ▶ 従業者あたりの年間商品販売額は長野市に次いで2番目に大きい。

■ 年間商品販売額

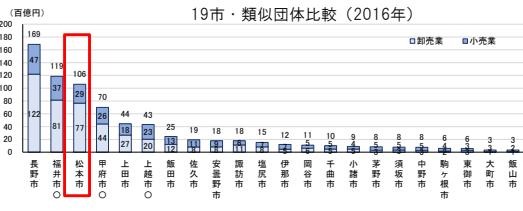


出典：経済産業省「商業統計調査」、「経済センサス基礎調査」、「経済センサス活動調査」

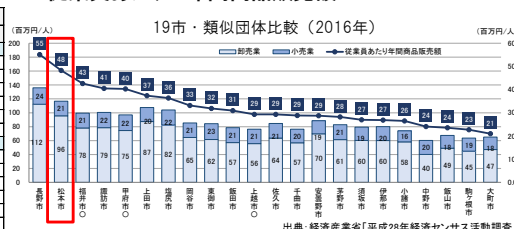
産業中分類別事業所数、従業者数、年間商品販売額(2016年)

区分	事業所数	従業者数(人)	年間商品販売額(百万円)	
			事業所当たり	従業者1人当たり
卸売業計	893	8,020	9,767,176	859
各種商品卸売業	2	13	7	X
繊維・衣服卸売業	23	162	7,509,121	221
飲食料品卸売業	172	1,678	10,186,270	1,083
建築材料、肥料・畜産材料卸売業	144	1,320	9,124,117	862
情報通信卸売業	339	2,916	9,290,858	856
その他の卸売業	213	1,931	9	X
小売業計	1,819	13,980	8,294,648	162
各種商品小売業	8	580	73,18,175	2,272
繊維・衣服・身の回り品小売業	245	1,164	5,20,162	82
飲食料品小売業	492	5,058	10,75,882	154
情報通信小売業	278	1,950	7,70,406	253
その他の小売業	717	4,714	7,98,325	137
無店舗小売業	78	514	7,11,697	150

19市・類似団体比較(2016年)



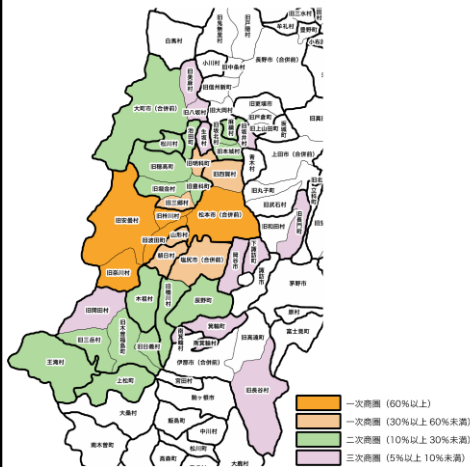
■ 従業者あたりの年間商品販売額



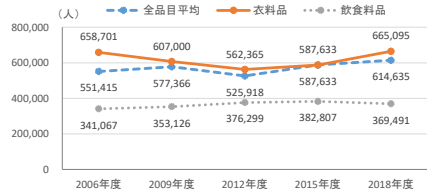
- 本市の商圏は、中信地方を中心に、北は大町市（合併前）、旧美麻村、南は玉滝村まで広がっている。
- 2018年度の松本市（合併前）の商圏人口（全品目平均）は614,635人であり、2012年度以降、増加傾向にある。

■松本市(合併前)の商圏

松本市（合併前）の商圏<全品目>（2018年）



松本市（合併前）の商圏人口の推移



	2006年度	2009年度	2012年度	2015年度	2018年度
全品目平均	551,415	577,366	525,918	587,633	614,635
衣料品	658,701	607,000	562,365	587,633	665,095
飲食料品	341,067	353,126	376,299	382,807	369,491

※商圏内の常住人口（商圏調査では推計人口を利用しているため、国勢調査などの値とは異なる。）

松本市（合併前）の地元滞留率<全品目平均>の推移

	2006年度	2009年度	2012年度	2015年度	2018年度
全品目平均	94.1	93.4	92.5	90.2	90.5

松本市（合併前）の吸引力係数<全品目平均>の推移

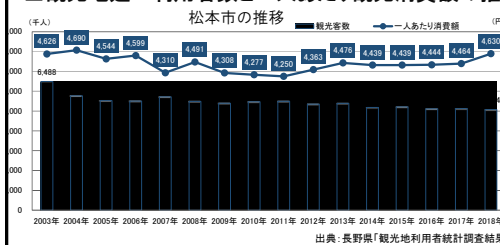
	2006年度	2009年度	2012年度	2015年度	2018年度
全品目平均	140.6	143.8	143.7	140.7	142.1

出典：長野県「長野県商圏調査報告書」

観光の状況

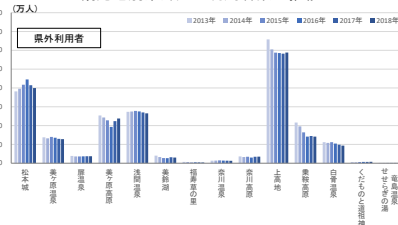
- 観光地延べ利用者数、一人あたり観光消費額はともにほぼ横ばいで推移している。観光地別に県外延べ利用者数の推移をみると、上高地、乗鞍高原、白骨温泉は県外利用者の比率が下がりがつつある。松本城も2016年以降減少傾向である。
- 主要観光地別にみると、松本城が2016年以降減少傾向である。一方、美ヶ原高原が2016年以降増加している。

■観光地延べ利用者数と一人あたり観光消費額の推移

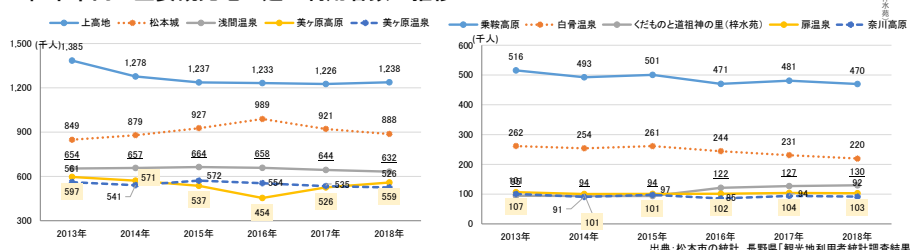


出典：長野県「観光地利用者統計調査結果」

観光地別県外延べ利用者数の推移



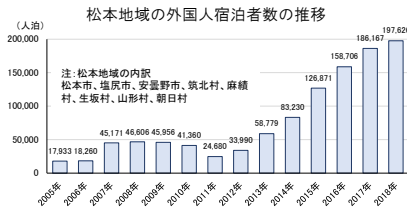
■松本市内の主要観光地の延べ利用者数の推移



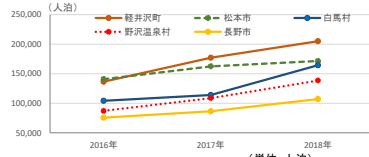
出典：松本市の統計、長野県「観光地利用者統計調査結果」

- ▶ 松本地域の外国人延泊者数は2012年以降一貫して増加を続け、2018年には20万人近くに迫っている。
- ▶ 市町村別の統計がある2016年以降の動向をみると、松本市は増加し、2018年時点で軽井沢町に次いで2番目である。
- ▶ 国籍別には、松本市は台湾、中国、香港などアジア系その他、タイが多い。外国人延泊者数が多い軽井沢町はアジア系、白馬村はオーストラリアからの来訪者が多くなっている。

■外国人延泊者数



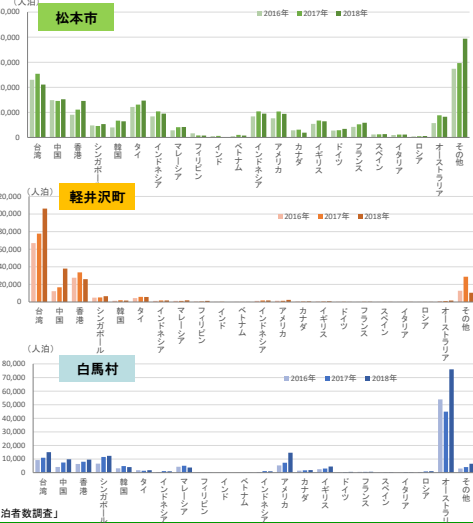
市町村別外国人延泊者数の推移(上位5市町村)



	2016年	2017年	2018年	対2016年
軽井沢町	136,497	177,055	204,940	150.1
松本市	140,755	162,428	171,508	121.8
白馬村	104,226	113,970	164,377	157.7
野沢温泉村	87,150	108,710	138,460	158.9
長野市	75,565	86,382	107,081	141.7

出典: 長野県「外国人延泊者数調査」

松本市・軽井沢町・白馬村の国籍別外国人延泊者数



(3) 健康・医療・福祉

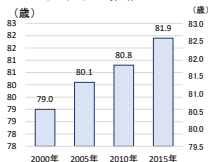
平均寿命と健康寿命

> 松本市の平均寿命は男女ともに年々伸びている。2015年の平均寿命を他市と比較すると、女性は上位に位置している。
 > 県が公表した2010年時点での健康寿命と平均寿命の差は、女性で3.97年となっており、県内他市の中では比較的長くなっている。
 > 松本市が独自に推計している健康寿命では、2014年から2018年にかけて伸びている。

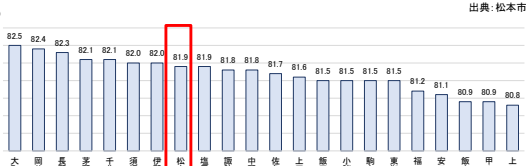
■平均寿命

【男性】

松本市の推移



19市・類似団体比較(2015年)



■健康寿命

松本市の推移

※松本市による独自推計 (単位:歳)

	2014年	2018年
男性	79.51	80.61
女性	84.21	84.58

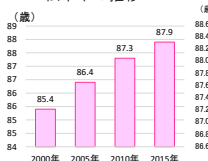
出典:松本市

19市比較(2010年)

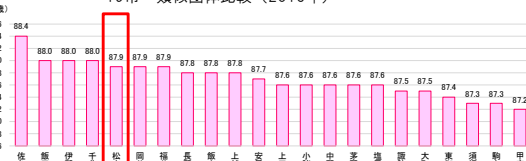
順位	市町村	平均寿命	健康寿命	差
1	諏訪市	82.0	80.3	-1.70
2	伊那市	81.7	80.2	-1.52
3	東御市	81.2	80.1	-1.10
4	長野市	81.1	80.1	-1.02
5	岡谷市	80.9	80.0	-0.94
6	飯田市	81.8	79.8	-1.95
7	佐野市	81.0	79.8	-1.24
8	松本市	81.7	79.4	-2.32
9	松本市	80.8	79.3	-1.48
10	上田市	81.2	79.3	-1.90
11	松本市	80.9	79.0	-1.90
12	上田市	81.2	78.9	-2.28
13	中野市	80.6	78.6	-2.00
14	長野市	81.2	78.1	-3.10
15	駒ヶ根市	80.8	78.0	-2.80
16	飯山市	80.2	78.0	-2.20
17	飯田市	80.5	78.5	-2.00
18	千曲市	80.2	78.4	-1.80
19	飯田市	80.2	78.2	-1.98
	長野県	80.0	79.5	-1.44

【女性】

松本市の推移



19市・類似団体比較(2015年)



出典:厚生労働省「市区町村別生命表」

出典:厚生労働省「市区町村別生命表」(2015年)

女性 (単位:歳)

順位	市町村	平均寿命	健康寿命	差
1	諏訪市	87.1	85.6	-2.14
2	飯田市	87.4	84.9	-2.47
3	岡谷市	87.4	84.8	-2.61
4	伊那市	87.4	84.6	-2.81
5	長野市	87.2	84.4	-2.81
6	茅野市	86.9	84.3	-2.56
7	小諸市	87.1	84.3	-2.84
8	大府市	87.8	84.3	-3.54
9	千曲市	87.7	84.2	-3.55
10	佐久市	88.0	84.0	-3.97
11	飯田市	87.3	84.0	-3.33
12	安曇野市	87.8	83.8	-3.98
13	須坂市	86.9	83.7	-3.20
14	中野市	87.4	83.5	-3.88
15	飯山市	86.7	83.5	-3.22
16	駒ヶ根市	86.7	83.4	-3.27
17	松本市	87.3	83.3	-3.97
18	上野市	86.5	83.2	-3.31
19	東御市	87.4	82.6	-4.85
	長野県	87.2	84.0	-3.16

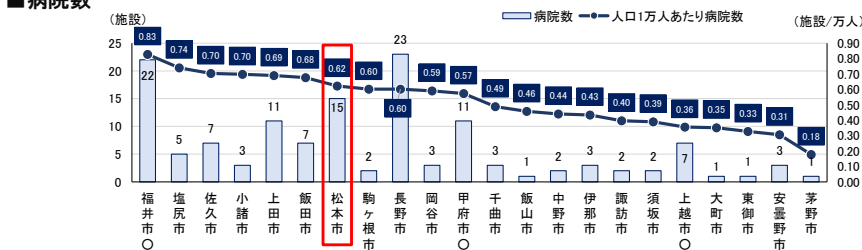
出典:長野県健康福祉部「市区町村別健康寿命の算定について」(2015年)

医療

> 松本市の人口1万人あたりの病院数・病床数は他市と比較し上位であり、医療資源が比較的充実している。

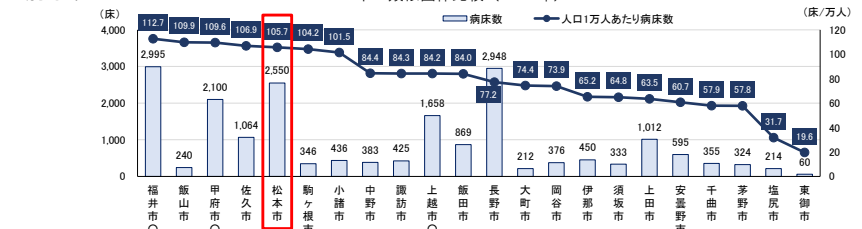
■病院数

19市・類似団体比較(2017年)



■病床数

19市・類似団体比較(2017年)

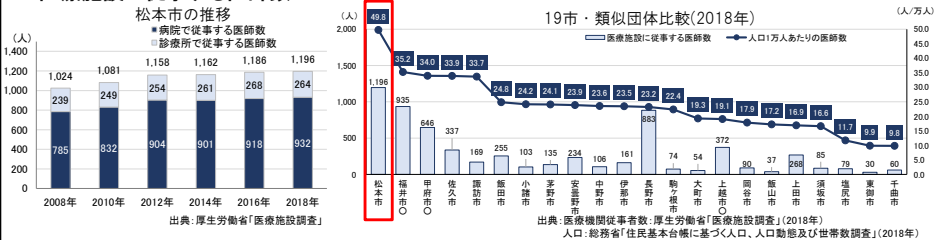


出典:病院数・病床数:厚生労働省「医療施設調査」(2017年)

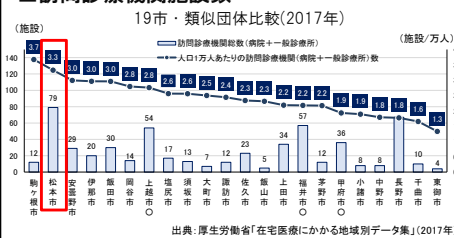
人口:総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」(2017年)

- 松本市は医療施設に従事する医師数が19市・類似団体の中で最も多い。
- 人口1万人あたりの医師数も49.8人で、類似団体かつ県庁所在地でもある福井市や甲府市と比べても突出しており、医療環境は充実しているといえる。
- 19市・類似団体の中で、人口1万人あたりの訪問診療機関施設数は2番目、看取りを実施する施設数は7番目に多く、在宅生活を支える医療施設も多い状況である。

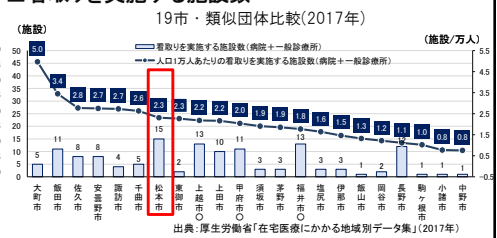
医療施設に従事する医師数



訪問診療機関施設数



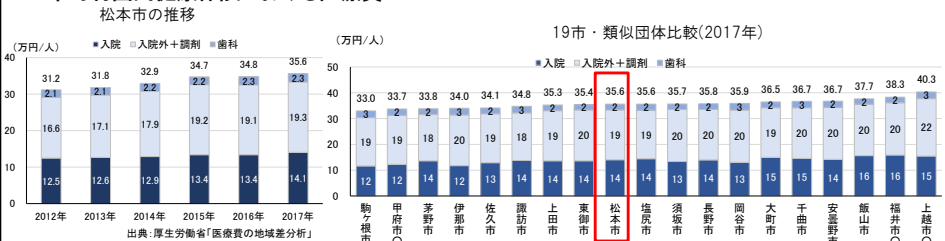
看取りを実施する施設数



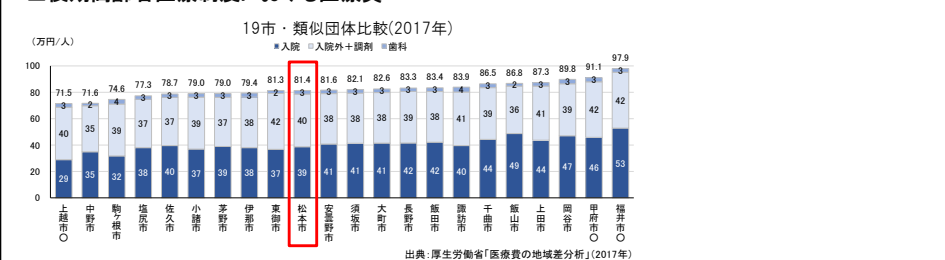
医療費

- 国民健康保険での医療費をみると、松本市は年々上昇傾向にある。19市・類似団体と比較すると松本市は中位である。
- 後期高齢者医療制度における医療費でも松本市は中位である。

市町村国民健康保険における医療費



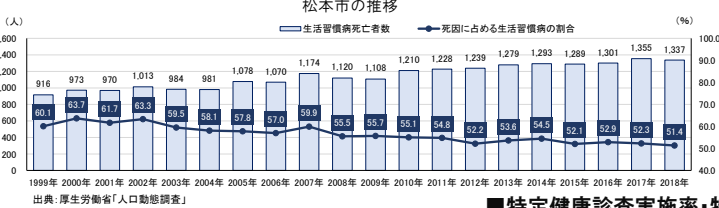
後期高齢者医療制度における医療費



健康づくり

▶ 生活習慣病による死亡者数は過去20年間で年々緩やかに増加しており、1,300人を超えている。ただし、死因に占める生活習慣病の割合は逆に緩やかな減少傾向がみられる。死因に占める生活習慣病の割合では、19市・類似団体と比較すると中位である。
 ▶ 松本市の特定健康診断実施率は45.1%であり、特定保健指導実施率は41.4%であり、ともに19市・類似団体と比較すると中位である

■生活習慣病による死亡者数

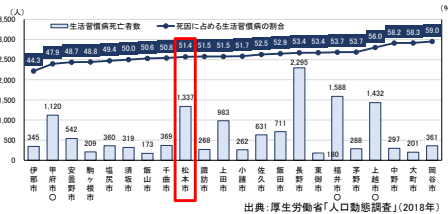


生活習慣病は以下の死因

- 悪性新生物
- 高血圧性疾患
- 心疾患
- 脳血管疾患
- 糖尿病

■特定健康診断実施率・特定保健指導実施率 (国民健康保険)

19市・類似団体比較 (2017年)



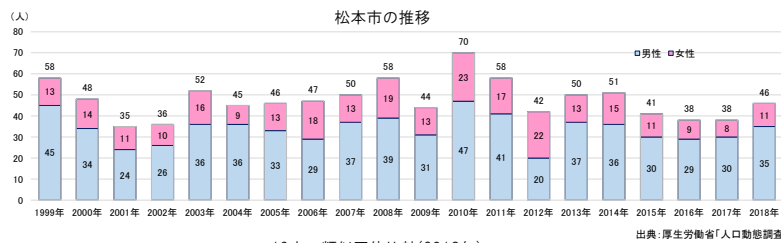
19市・類似団体比較 (2017年)



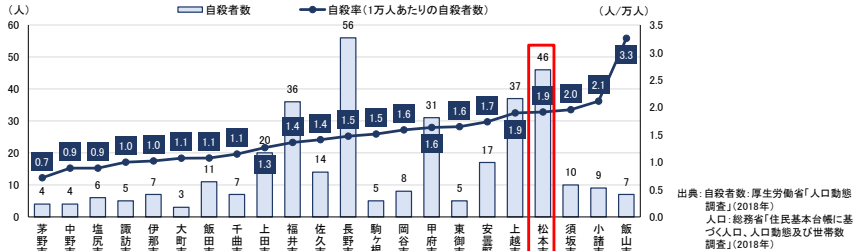
精神保健

▶ 年間の自殺者数は年によってばらつきがあるが、常に男性の方が女性より多い。
 ▶ 自殺率(1万人あたりの自殺者数)を19市・類似団体と比較すると、4番目に高くなっている。

■自殺者数



19市・類似団体比較(2018年)

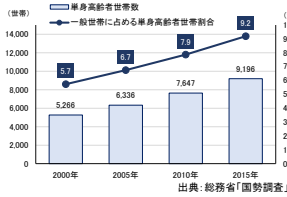


高齢者福祉

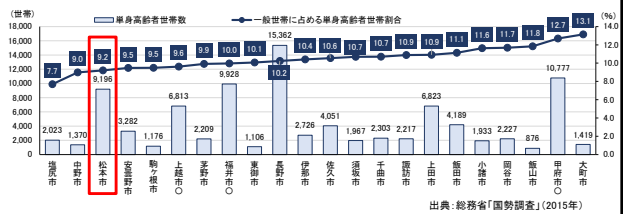
- 単身高齢者世帯数は年々増加している。一般世帯に占める単身高齢者世帯割合を19市・類似団体に比較すると、松本市は3番目の低さとなっている。
- 死亡者に占める自宅死の割合は上昇傾向にあったが2018年はやや下がった。老人ホーム死は上昇傾向にある。自宅死・老人ホーム死を合わせた在宅での看取りの割合は19市・類似団体の中では5番目に高い。

■65歳以上の高齢者単身世帯数の推移

松本市の推移

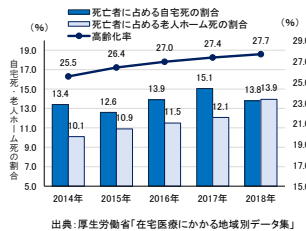


19市・類似団体比較 (2015年)

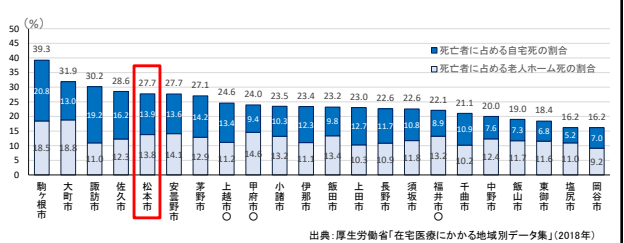


■在宅での看取りの割合

松本市の推移



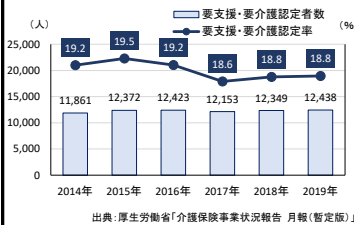
19市・類似団体比較 (2018年)



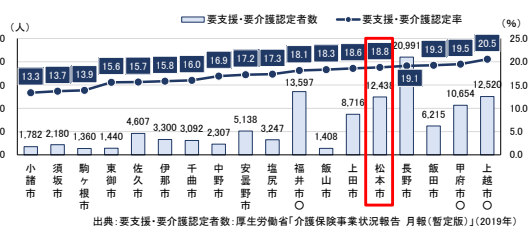
- 要支援・要介護認定者数は12,300人程度を前後し、横ばいである。要介護認定率は近年18%台で推移している。要介護認定率は15市・類似団体に比較して高い水準にある。
- 調整済み認定率は下がりつつあるが15市・類似団体に比較して高い水準にあり、年齢の影響を加味しても認定率が高いといえる。

■要支援・要介護認定者数

松本市の推移



15市・類似団体比較 (2019年)

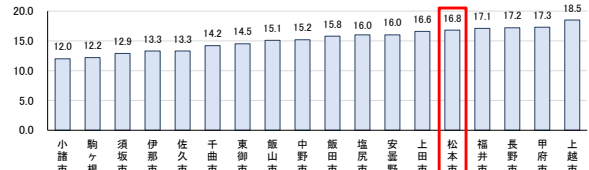


■調整済み認定率

松本市の推移



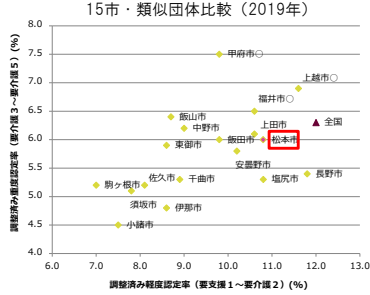
15市・類似団体比較 (2018年)



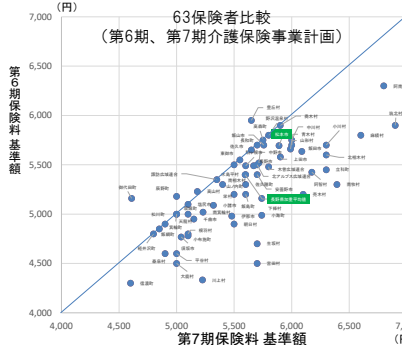
- 調整済み認定率の重度、軽度の分布をみると、類似団体よりも重度認定率は低くなっている。
- 在宅サービス利用率は、15市中最も高くなっている。
- 介護保険料基準額は要支援・要介護認定率が高いこともあり高い。第6期から第7期介護保険事業計画にかけては横ばいである。

■調整済み重度認定率と調整済み軽度認定率の分布 ■介護保険料基準額(月額)

15市・類似団体比較 (2019年)

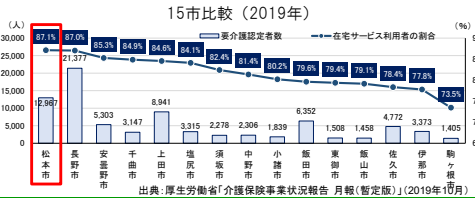


出典:厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」※地域包括ケア「見える化」システムを活用



■在宅サービス利用率

15市比較 (2019年)



出典:厚生労働省「介護保険事業状況報告 月報(暫定版)」(2019年10月)

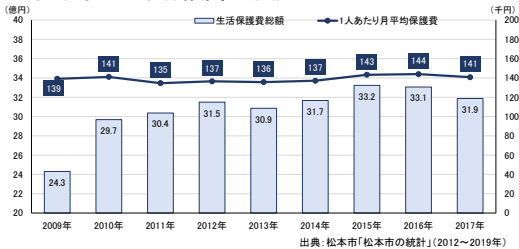


出典:長野県健康福祉部

生活保護

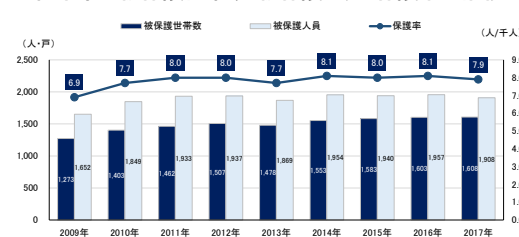
- 生活保護費総額は2009年と比較すると、2010年以降高い水準で推移している。
- 一人あたり月平均保護費はほぼ14万円前後で推移している。被保護世帯数は徐々に増加してきている。

■松本市の生活保護費の推移



出典:松本市「松本市の統計」(2012~2019年)

■松本市の被保護世帯数・被保護人員・保護率の推移

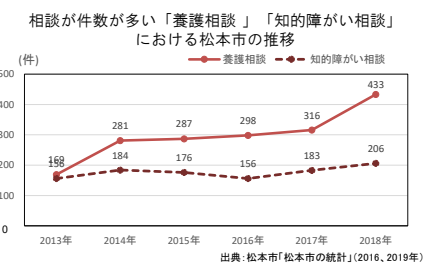
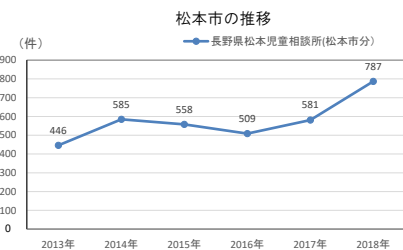


※保護率: まちの総人口に対する被保護人員の割合のこと。
出典:松本市「松本市の統計」(2012~2019年)

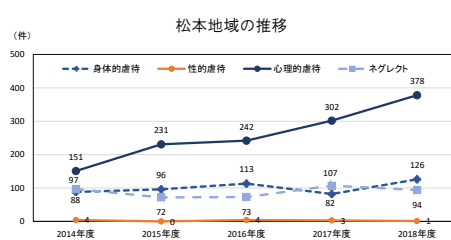
児童福祉

- ▶ 松本児童相談所における相談件数は増加傾向にある。内訳をみると「養護相談」の件数が増加している。
- ▶ 松本地域の児童虐待は年々増加してきている。中でも、心理的虐待が近年急増している。

■ 児童相談所相談受付状況



■ 児童虐待区分別相談件数(松本地域)



区分	2018年度				
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	うち松本市分
身体的虐待	88	96	113	82	76
性的虐待	4	0	4	3	0
心理的虐待	151	231	242	302	222
ネグレクト	97	96	113	107	53
合計	340	399	432	494	351

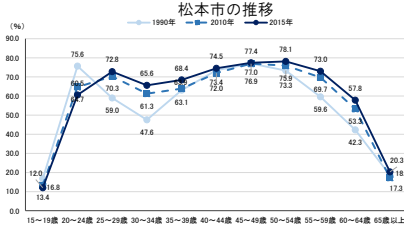
出典: 松本市総合教育会議資料
注: 2018年度は速報値

(4) 子育て・教育・文化・芸術・スポーツ

子育て

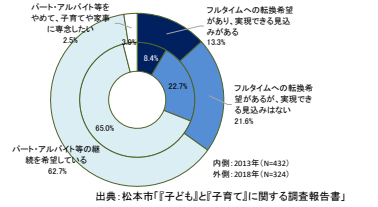
- ▶ 女性が子育て中に離職してしまういわゆるM字カーブ問題は、M字の谷が徐々に緩やかになり、解消されてきている。
- ▶ 未就学児を持つ母親で、フルタイムへの転換を希望する人の割合は増加しており、フルタイム就労意欲は高まっている。
- ▶ 保育園児童数は3歳未満児が増加している。保育園待機児童数は2019年時点で30人超であり、県内で最も多い。
- ▶ 7割以上の保護者が松本市が子育てしやすいと感じている。

■女性の年齢階級別就業率

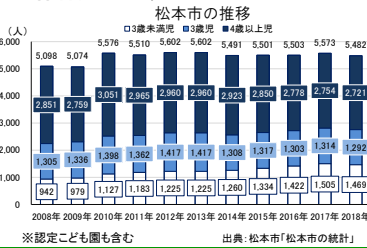


■松本市の未就学児の母親の就労希望

フルタイムへの転換希望（未就学児）の経年比較



■保育園児童数

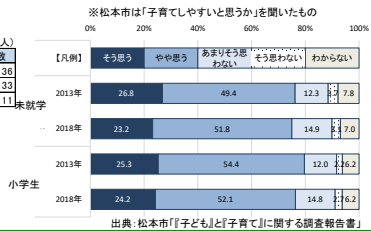


■長野県内の保育園待機児童数

市町村	待機児童数
1 長野県	36
2 松本市	30
3 長野市	11
4 長野市	11

出典：厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ」(2019年)

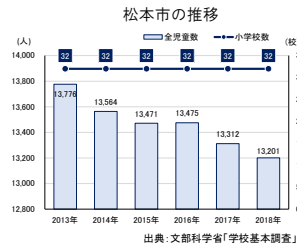
■松本市の子育てのしやすさ



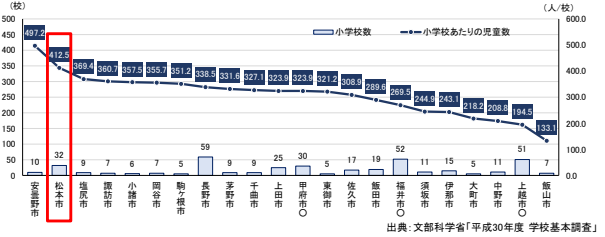
教育

- ▶ 小学生、中学生ともに児童・生徒数が6年間で500人以上減少している。
- ▶ 19市・類似団体と比較して、小学校あたりの児童数は安曇野市に次いで2番目に多く、中学校あたり生徒数は4番目に少ない。

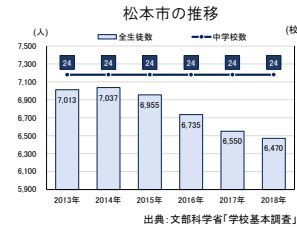
■小学校数と児童数



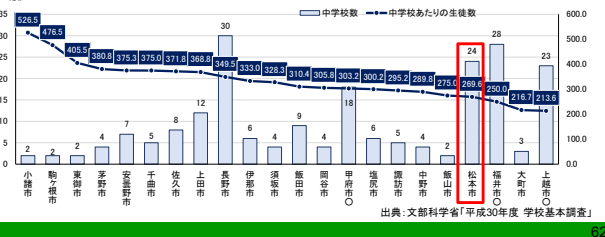
19市・類似団体比較



■中学校数と生徒数

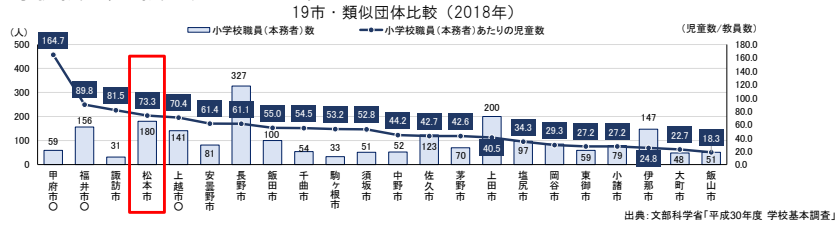


19市・類似団体比較

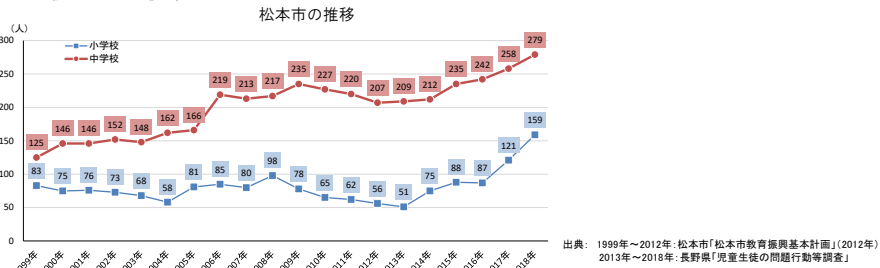


- ▶ 職員あたりの児童数は、19市・類似団体比較では4番目に多く、教職員1人に対して児童数が比較的多い。
- ▶ 松本市の不登校児童・生徒数は2014年からとも増加してきている。1999年→2018年で、小学校は1.9倍、中学校は2.2倍となっている。

■小学校職員数と職員あたりの児童数



■不登校児童・生徒数

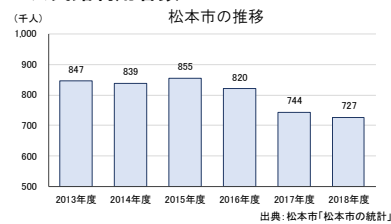


63

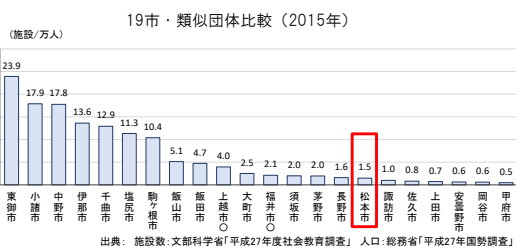
文化・芸術

- ▶ 公民館利用者数はここ数年減少している。1万人あたりの公民館数は松本市は1.5館であり、19市・類似団体の中では比較的低い。
- ▶ 市立図書館貸出冊数は2016年度以降減少傾向にある。1人あたりの図書館蔵書数は5.0冊で他市と比較して中位程度の水準である。

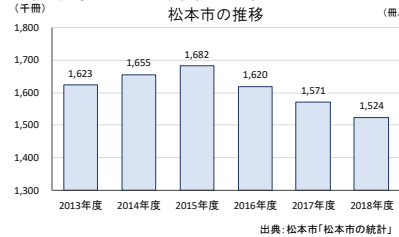
■公民館利用者数



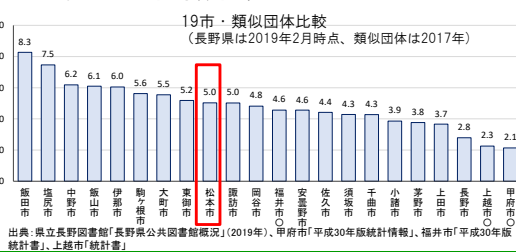
■人口1万人あたりの公民館数



■松本市立図書館貸出冊数



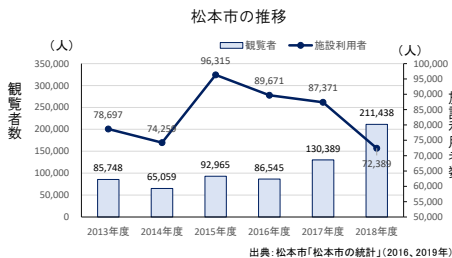
■人口1人あたりの図書館蔵書数



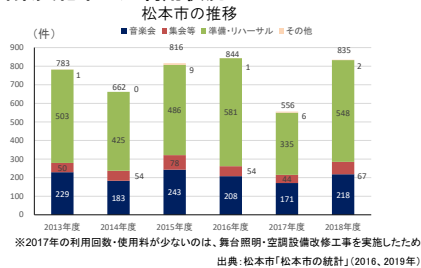
64

- 市内の主要文化施設の利用状況を見ると、松本市立美術館の観覧者は増加傾向にある。
- 他施設の利用回数をもとと微増減をしながら、横ばいで推移している。

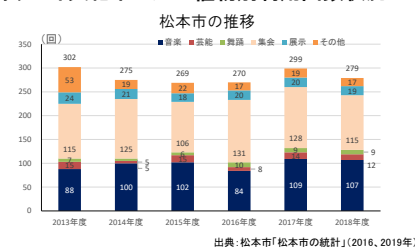
■松本市美術館観覧者・施設利用者



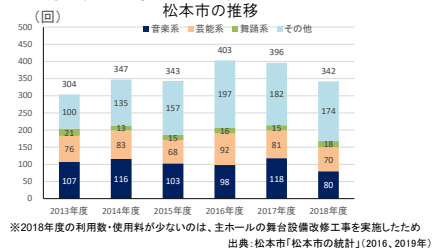
■音楽文化ホール利用状況



■キッセイ文化ホールの催物別利用回数状況



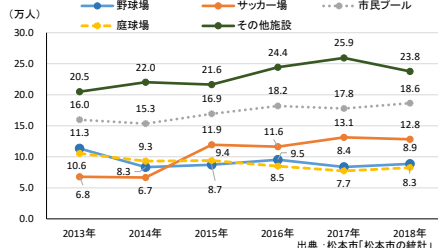
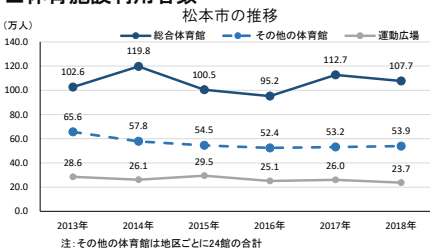
■市民芸術館の内容別利用状況



スポーツ

- 体育施設の利用者数は、総合体育館は年によって多少変動があるが、概ね年間100万人を超える利用実績がある。24館あるその他の地区体育館の合計利用者数は約50万人超で推移しており、安定的に利用されている。市民プールやサッカー場も近年増加傾向である。
- 松本市がホームタウンになっている松本山雅FCのホームゲームの入場者数は2019年に過去最高となり、経済波及効果も64.5億円と地域経済への影響力が大きくなってきている。

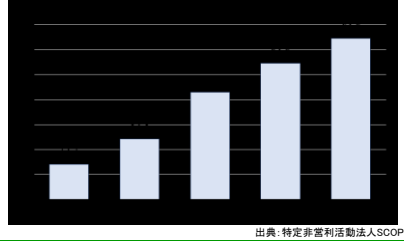
■体育施設利用者数



■松本山雅FCのホームゲーム入場者数



■松本山雅FCの経済波及効果



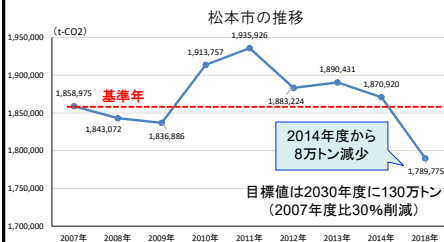
(5) 環境

67

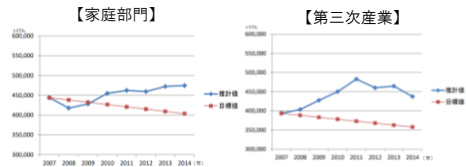
- 温室効果ガス排出量は、2011年がピークでその後は減少傾向である。2014年度から2018年度にかけて約8万トン減少し、基準年を下回っている。家庭部門や第三次産業からの排出量は、目標値を超過しており、目標値との乖離が大きくなっている。
- 温室効果ガスの一つである二酸化炭素排出量は、2012年度よりも横ばいで推移している。一人あたりに換算すると19市及び類似団体のなかでは中位に位置している。

■温室効果ガス総排出量

注：温室効果ガスは「二酸化炭素」「メタン」「一酸化二窒素」「ハイドロフルオロカーボン」の4種類

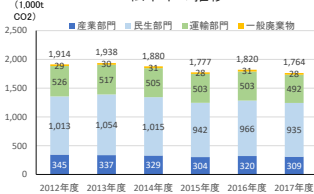


松本市の部門別の推移



■二酸化炭素排出量

松本市の推移



19市・類似団体比較 (2017年)



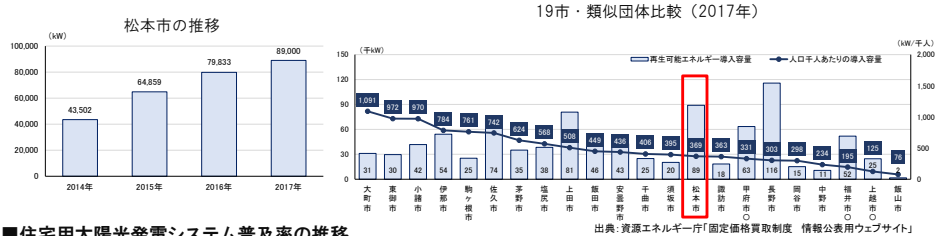
出典：二酸化炭素排出量：環境省「CO2排出量現況推計」、人口：総務省「住民基本台帳」

出典：二酸化炭素排出量：環境省「CO2排出量現況推計」(2017年)、人口：総務省「住民基本台帳」(2017年)

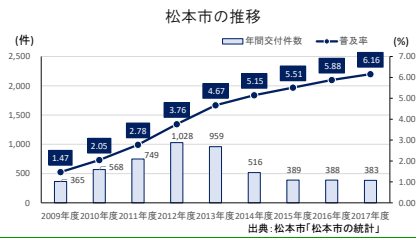
68

- 再生可能エネルギー導入容量は、89,000 kWであり、県内では長野市に次いで多い。しかし、人口千人あたりで他市と比較すると中位以下である。
- 住宅用太陽光発電システム設置補助交付金件数は、2012年の1,028件をピークに以降減少に転じ、近年は300件台で推移している。普及率は6.16%まで上昇している。

再生可能エネルギー導入容量

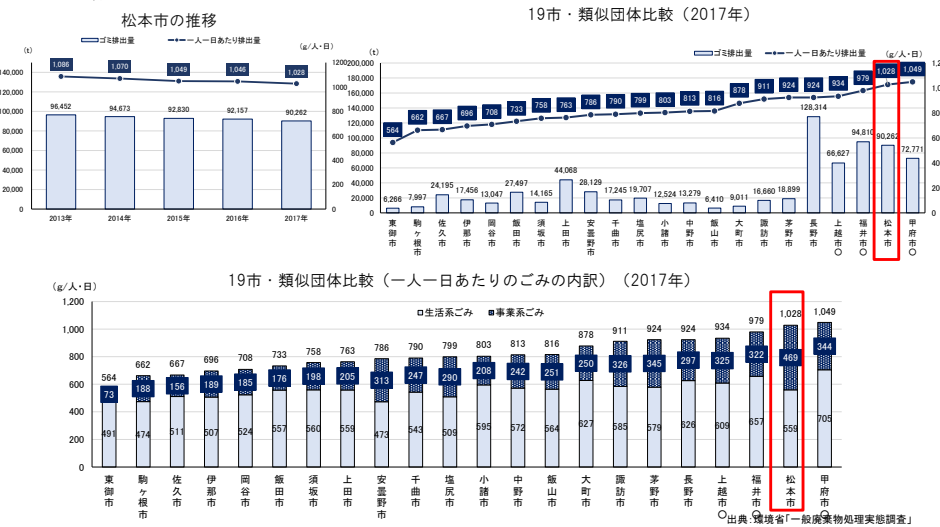


住宅用太陽光発電システム普及率の推移



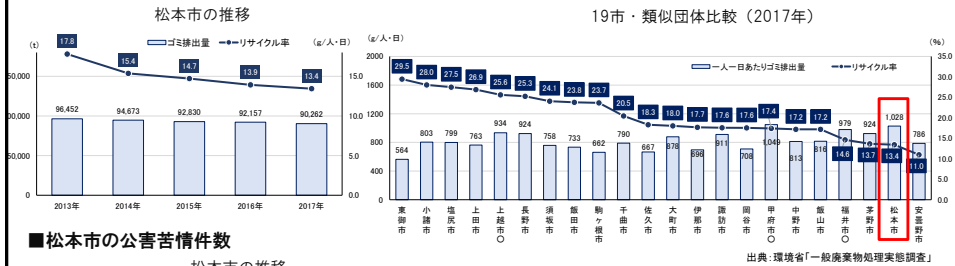
- 松本市の一人あたりの一日のゴミの排出量は、年々減少傾向にあるが、県内19市及び類似団体と比較すると甲府市に次いで多い。
- 生活系ごみ、事業系ごみの内訳をみると、松本市は他市に比べ事業系ごみが多いことがわかる。

ゴミの排出量

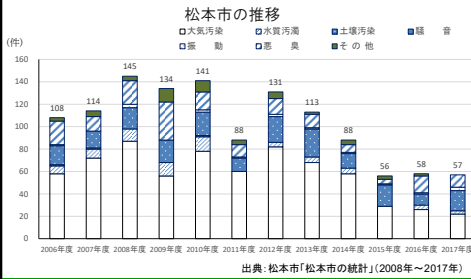


- 松本市のリサイクル率をみると年々低下している。県内19市及び類似団体と比較すると安曇野市に次いでリサイクル率が低い。
- 公害苦情件数は、減少傾向にある。

■リサイクル率



■松本市の公害苦情件数

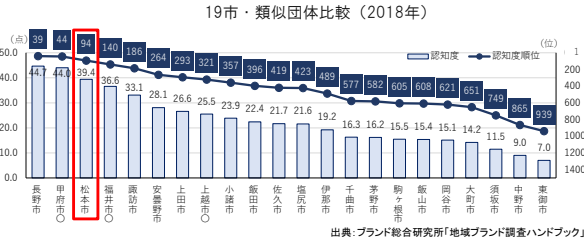
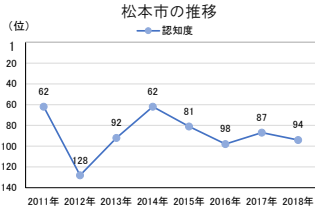


(6) 社会基盤・地域づくり

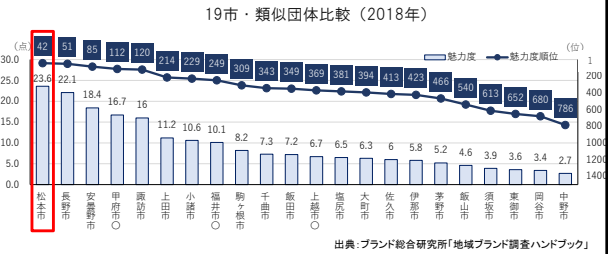
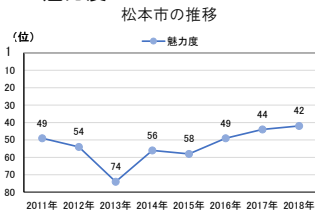
地域ブランド

- 松本市の認知度は、過去7年間で1,047調査地域中100位以内をほぼ保っており、19市・類似団体と比較すると上位3番目である。
- 魅力度は毎年50位前後を推移しており、近年は上昇傾向にある。19市・類似団体のなかでは長野市を抜いて1位となっている。

■認知度



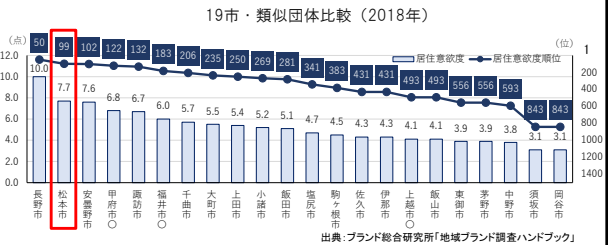
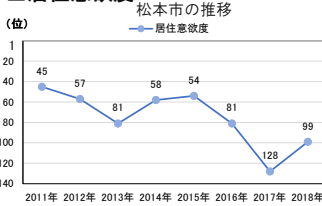
■魅力度



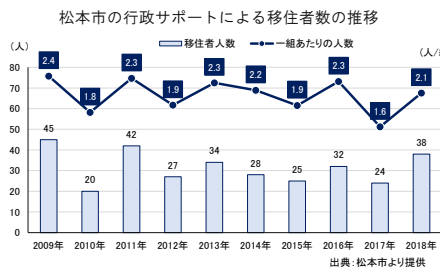
73

- 松本市の居住意欲度の順位は7年間で減少傾向にあり、2017年には128位まで下降したが、翌年は99位まで回復している。19市・類似団体比較では、長野市に次いで高い順位となっている。
- 移住者数は30人前後で増減し、2018年は38人であった。移住相談件数は10年間で緩やかに増加してきている。

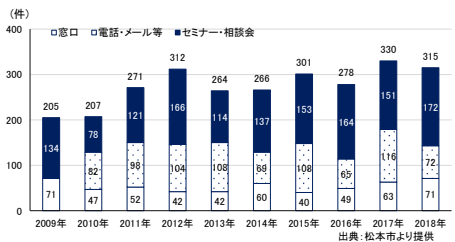
■居住意欲度



■移住サポート実績



松本市の移住相談件数の推移

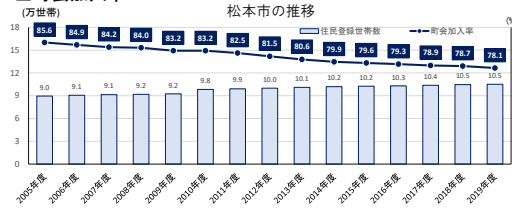


74

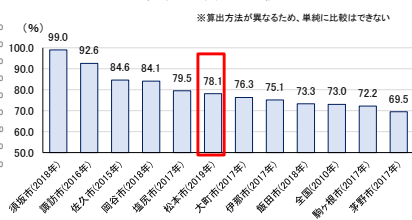
コミュニティ

- 松本市の住民登録世帯数は緩やかに増加傾向にあるが、町会加入率は低下傾向にある。
- 松本市の人口1万人あたりの消防団員数は、県内19市と比較すると83.4人で最も少ない。平均年齢をみると、37.0歳と他市に比較して高い水準にある。

■町会加入率



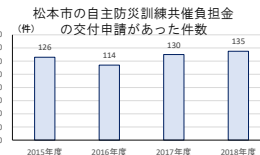
他市・全国との比較



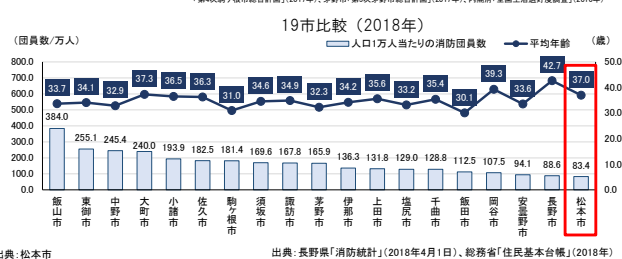
■自主防災組織の状況

松本市の推移

年度	町会数	自主防災組織 結成町会数	組成率 (%)
2016年度	489	483	98.8
2017年度	489	485	99.2
2018年度	488	484	99.2



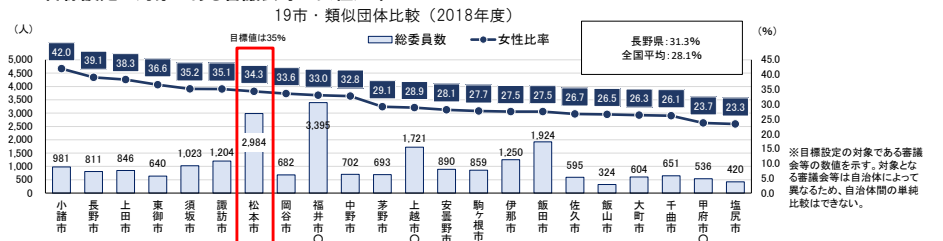
■消防団員数



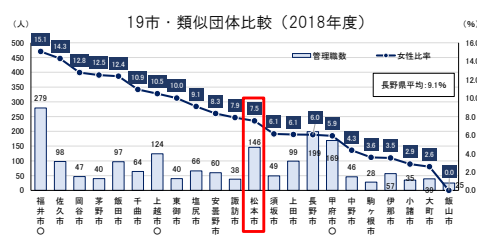
男女共同参画

- 審議会等の女性比率は34.3%であり、目標値に近い水準に位置している。22市と比較すると、上位7番目に位置している。
- 行政管理職に占める女性比率は7.5%で22市中12番目であり、長野県平均よりは低い。
- 自治会長に占める女性の割合は2.3%で22市中5番目であるが、全国に比べてまだ低い水準である。

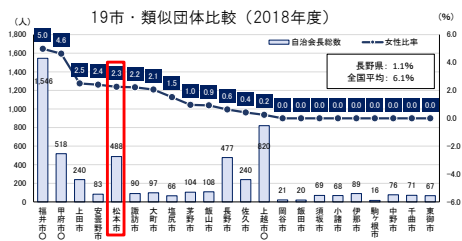
■目標設定の対象である審議会等の女性比率



■行政管理職に占める女性比率



■自治会長に占める女性の割合

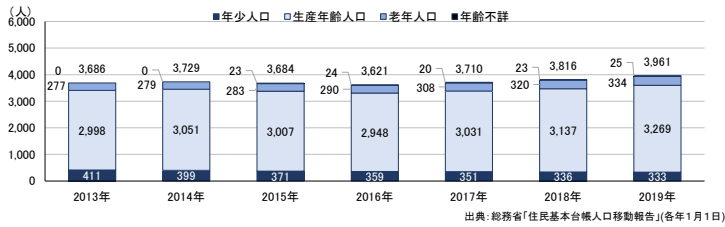


出典：内閣府男女共同参画局「地方公共団体における男女共同参画社会の形成または女性に関する施策の推進状況 H30年度 市区町村編」

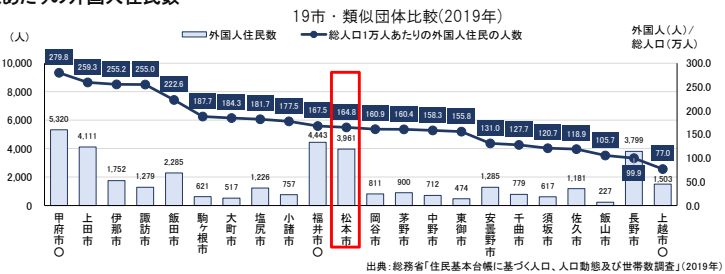
多文化共生

- 外国人住民数は2017年以降増加傾向であり、2019年は3,961人と過去7年間で最も多くなっている。
- 県内19市・類似団体と比較すると、外国人住民数は上位3番目の多さであるが、総人口1万人あたりの外国人住民数は164.8人であり、比較対象の中では標準的な人数である。

■松本市の外国人住民数の推移



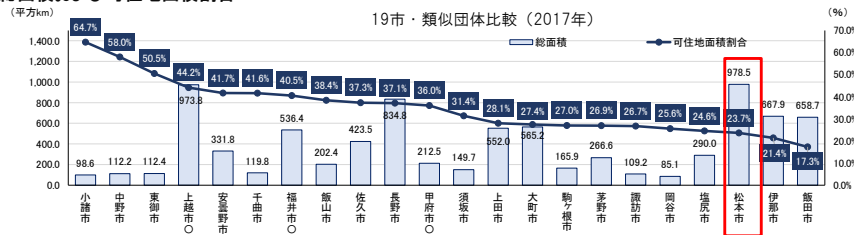
■人口1万人あたりの外国人住民数



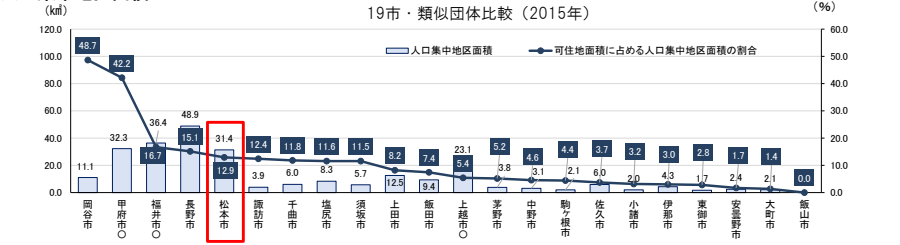
都市計画・土地利用

- 県内19市及び類似団体と比較すると松本市は総面積が最も広いが、可住地面積の割合は23.7%と低い。
- 人口集中地区面積は19市及び類似団体と比較すると、上位4番目の広さである。可住地面積に占める人口集中地区面積の割合は12.9%で5番目に高い。

■総面積および可住地面積割合

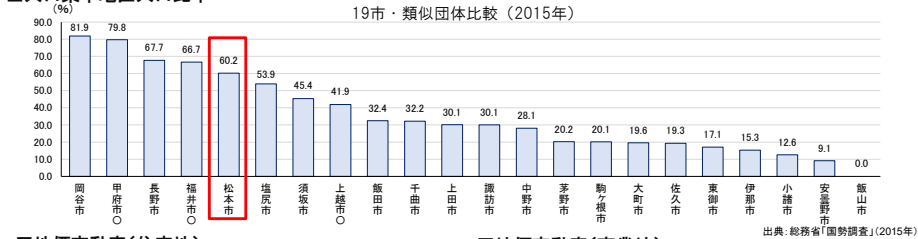


■人口集中地区面積

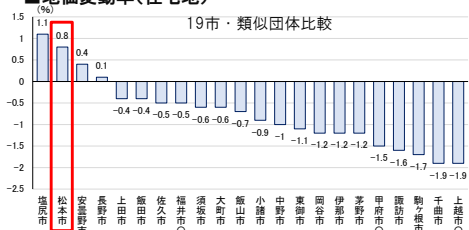


- 松本市の人口集中地区人口の総人口に占める割合は60.2%で、県内19市・類似団体の中で5番目に高い水準である。
- 住宅地と商業地の地価変動率については、松本市はともに正の値となっており、他市に比較して高い水準にある。

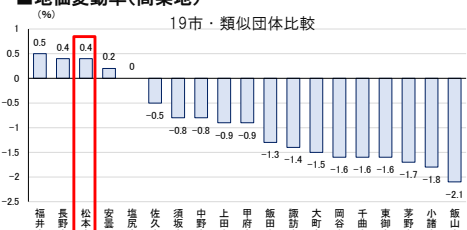
■人口集中地区人口比率



■地価変動率(住宅地)



■地価変動率(商業地)

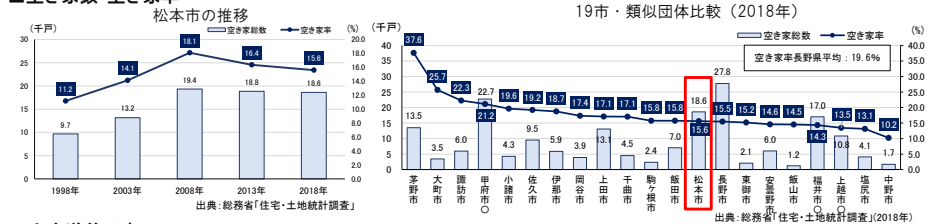


出典: 長野県「平成31年市町村別用途別平均価格及び変動率一覧表」、新潟県「平成31年地価公示のあらし」、福井県「H31地価公示概要」、山梨県「平成30年度地価調査市町村別一覧表」

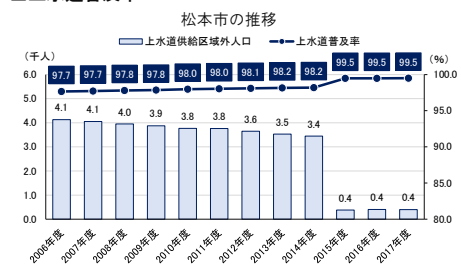
住宅

- 松本市の空き家総数は、2008年まで増加傾向だったが、その後は緩やかに減少している。19市・類似団体と比較すると、空き家総数は3番目に多いが、空き家率でみると中位以下の水準である。
- 上下水道はともに100%近い普及率である。

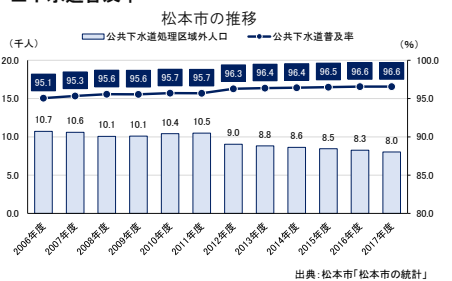
■空き家数・空き家率



■上水道普及率



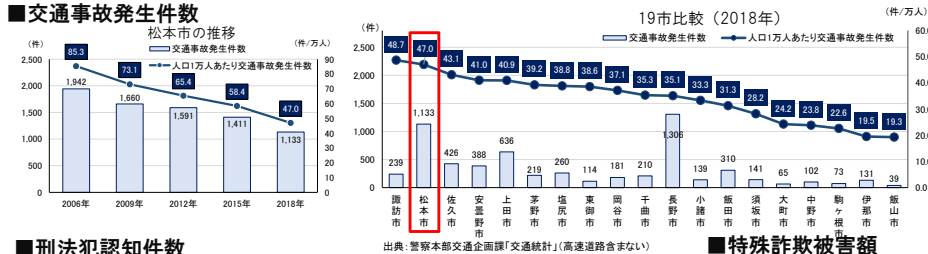
■下水道普及率



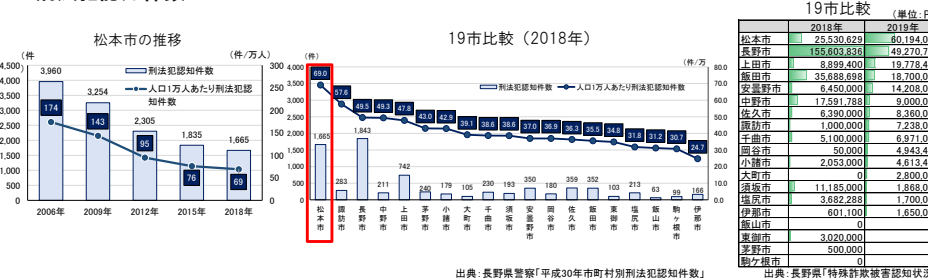
交通安全・防犯

- 松本市の交通事故発生件数は減少傾向にあるが、県内他市と比較すると発生件数、人口1万人あたり発生件数ともに2番目に多い。
- 刑法犯認知件数は減少傾向にあるが、県内他市と比較すると刑法犯認知件数は1,665件で2番目に高く、人口1万人あたりの件数は69件と最も多い。特殊詐欺被害額は2019年は19市の中で最も金額が大きい。

■交通事故発生件数



■刑法犯認知件数



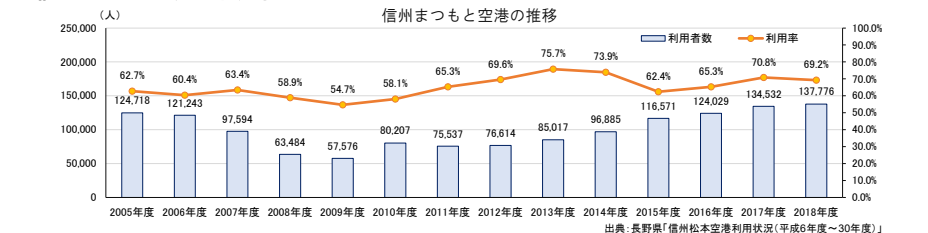
■特殊詐欺被害額

市	2018年 (単位:円)	2019年 (単位:円)
松本市	25,530,629	80,194,000
長野市	155,803,836	49,270,777
上田市	8,899,400	19,778,400
飯田市	35,888,898	18,700,000
安曇野市	8,450,000	14,238,000
中野市	17,591,788	9,000,000
佐久市	6,390,000	8,360,000
諏訪市	1,000,000	7,238,000
千曲市	5,100,000	6,371,000
岡谷市	50,000	4,843,425
小諸市	2,053,000	4,613,494
大町市	0	2,800,000
塩尻市	11,185,000	1,868,000
塩谷市	3,682,288	1,700,000
伊那市	801,100	1,850,000
飯山市	0	0
東御市	3,020,000	0
茅野市	500,000	0
駒ヶ野市	0	0

交通

- 信州まつもと空港、JR松本駅の利用者数はともに2009年度以降増加傾向にある。空港については、2019年10月から神戸線が就航したことにより、今後も利用者数の増加が予想される。
- 松本ICの通過車両数については、過去6年間、ほぼ横ばいで推移している。

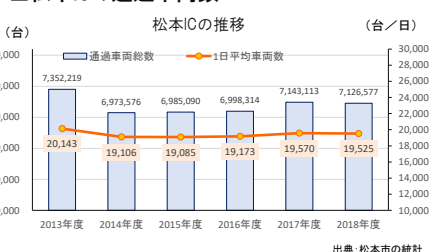
■信州まつもと空港の利用状況



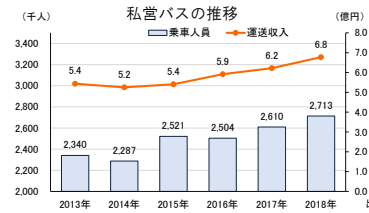
■JR松本駅の利用者数



■松本ICの通過車両数

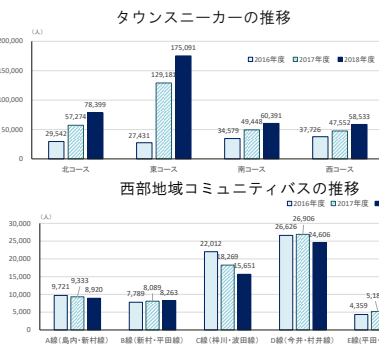


■私営バスの乗車人員・運送収入

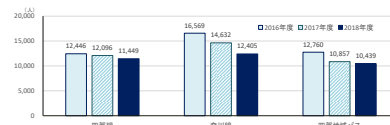


- ▶ 私営バスの乗車人数は増加傾向にあり、運送収入も伸びている。
- ▶ バスの種類別にみると、タウンズニーカーがどのコースも順調に乗車人数が増えている。特に東コースが大きく増加している。
- ▶ 逆に市営バス・滋賀地域バス、西部地域コミュニティバスは路線によっては乗車人数が減少傾向にある。

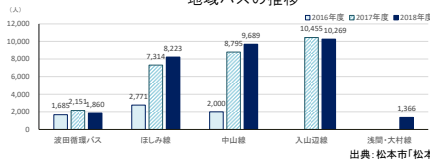
■バスの種類別乗車人員



市営バス・四賀地域バスの推移



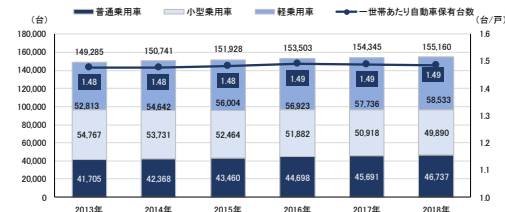
地域バスの推移



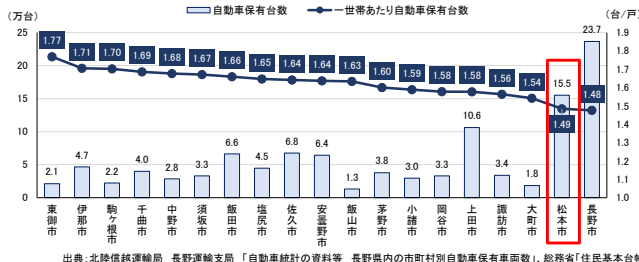
出典:松本市「松本市の統計」

- ▶ 松本市の一世帯あたりの自動車保有台数は1.4程度で推移している。
- ▶ 一世帯あたりの自動車保有台数を県内19市で比較すると、長野市に次いで少ない水準となっている。

■自動車保有台数 松本市の推移



19市比較 (2018年)



出典:北陸信越運輸局 長野運輸支局「自動車統計の資料等」長野県内の市町村別自動車保有台数、総務省「住民基本台帳」

(7) 行財政

85

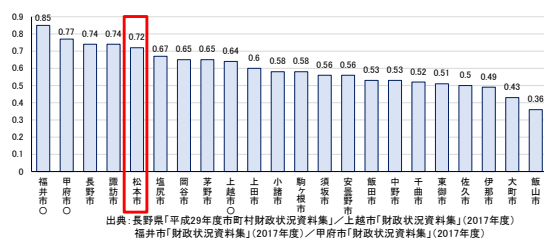
財政指標

- 自主財源の割合の高さを示す財政力指数は緩やかに上昇している。19市・類似団体と比較すると財政力は高い水準にある。
- 経常的な支出の大きさを示す経常収支比率は83%前後で推移している。19市・類似団体と比較すると経常収支比率は低く抑えられており、財政に一定の弾力性が確保されている。

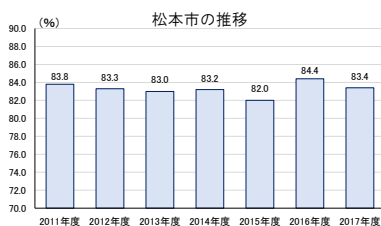
■ 財政力指数



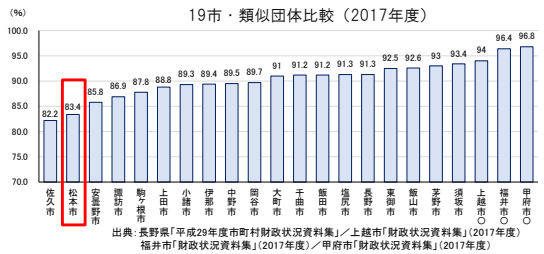
19市・類似団体比較 (2017年度)



■ 経常収支比率



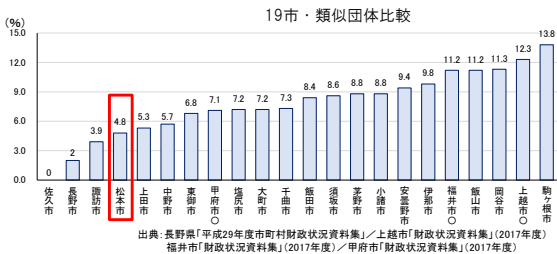
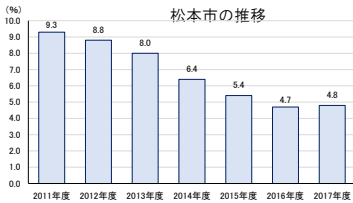
19市・類似団体比較 (2017年度)



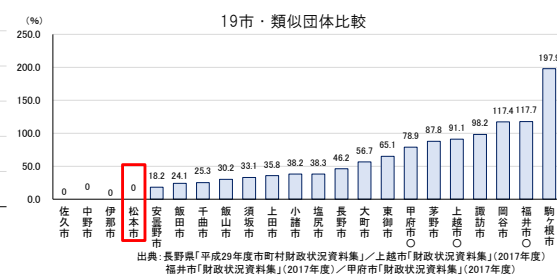
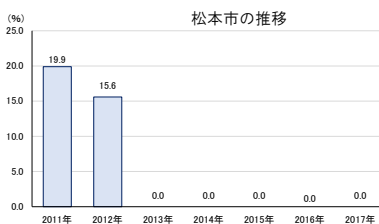
86

- ▶ 実質公債費比率は7年間で下がっており、19市・類似団体と比較しても低く抑えられている。
- ▶ 将来負担比率は2013年度以降0となっており、財政の健全化が図られているといえる。

■実質公債費比率



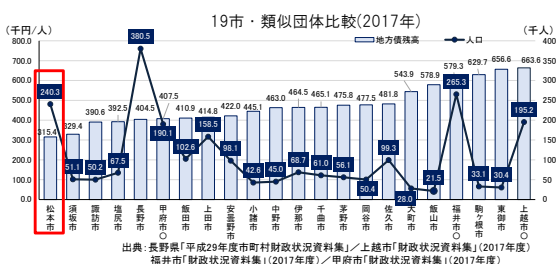
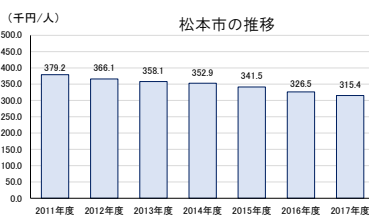
■将来負担比率



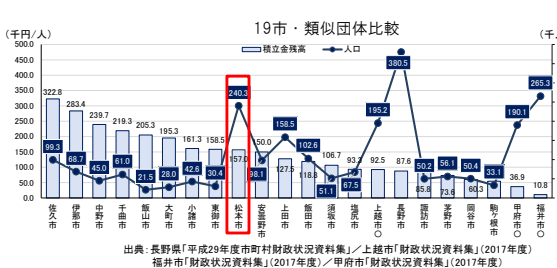
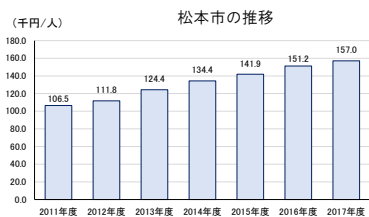
87

- ▶ 人口1人あたりの地方債残高は7年間で減少傾向にある。19市・類似団体の中では最も低く抑えられている。
- ▶ 人口1人あたりの積立金残高は7年間で増加傾向にある。19市・類似団体と比較すると9番目である。

■人口1人あたり地方債残高



■人口1人あたり積立金残高



88

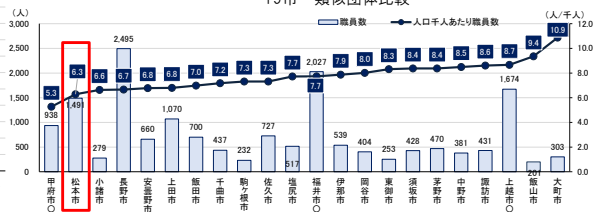
- 職員数はこの7年間横ばいで推移している。19市・類似団体と比較すると、人口千人あたりの職員数は甲府市に次いで少ない。
- 国家公務員の給与水準を100としたラスパイレス指数は2013年度以降100を下回っている。他市との比較では4番目に高い。

■職員数

松本市の推移



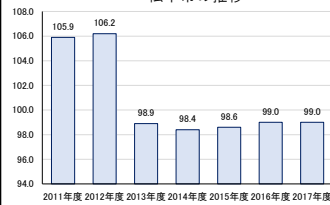
19市・類似団体比較



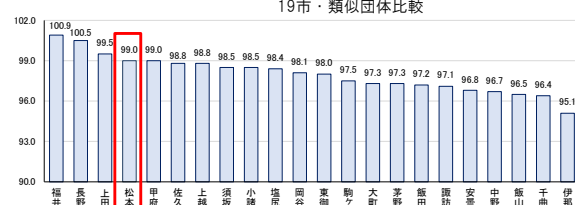
出典: 長野県「平成29年度市町村財政状況資料集」/ 上越市「財政状況資料集」(2017年度)
福井市「財政状況資料集」(2017年度) / 甲府市「財政状況資料集」(2017年度)

■ラスパイレス指数

松本市の推移



19市・類似団体比較



出典: 長野県「平成29年度市町村財政状況資料集」/ 上越市「財政状況資料集」(2017年度)
福井市「財政状況資料集」(2017年度) / 甲府市「財政状況資料集」(2017年度)